



KEIKYU CSR REPORT 2016

京急グループCSR報告書 2016

京急グループCSR報告書 2016
京浜急行電鉄株式会社 総務部
2016年8月発行

お問い合わせ
京急ご案内センター
ハローハロー
03-5789-8686 または **045-441-0999**
営業時間※/平日9:00~19:00 土・日・祝日9:00~17:00 ※2016年9月16日から

※営業時間は変更になる場合がございます。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

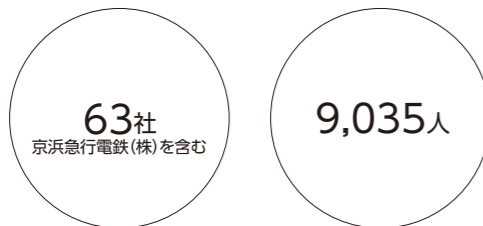
KEIKYU
京急グループ

京急グループの概要

京急電鉄会社概要 (2016年6月29日現在)

創 立：1898年2月25日 (前身: 大師電気鉄道株式会社)
 設 立：1948年6月1日
 本 社：〒108-8625
 東京都港区高輪2丁目20番20号
 資 本 金：437億円
 代 表 者：取締役社長 原田 一之
 従 業 員：1,824人
 主な事業内容：交通事業、不動産事業、レジャー・サービス事業、
 流通事業、その他事業

グループ会社数・総従業員数 (2016年3月31日現在)



事業フィールド

良質なサービス・商品の提供により、豊かで住みやすい沿線 づくりに取り組んでまいります。

交通事業

- 鉄道事業
- 乗合・貸切自動車事業 (バス事業)
- タクシー事業

流通事業

- 百貨店業
- ストア業
- ショッピングセンターの経営
- 物品販売業

不動産事業

- 不動産販売業
- 不動産賃貸業

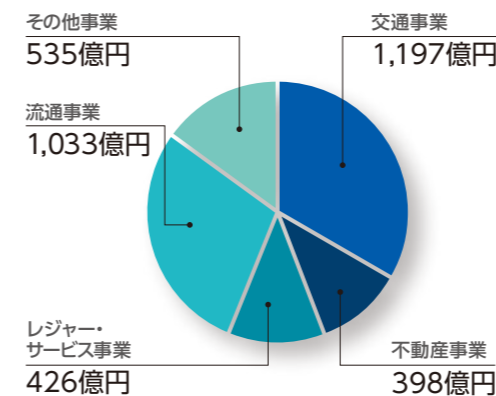
レジャー・サービス事業

- 旅行業
- ホテル・旅館・飲食業
- レジャー施設・ゴルフ場業
- 水族館・遊園地業
- 広告代理業

その他事業

- 建設・土木・造園業
- 輸送用機器修理業
- 電気設備工事業
- ビル管理業
- 情報処理業
- 自動車教習所業

事業別営業収益 (2015年4月1日～2016年3月31日)



京急の理念とCSR

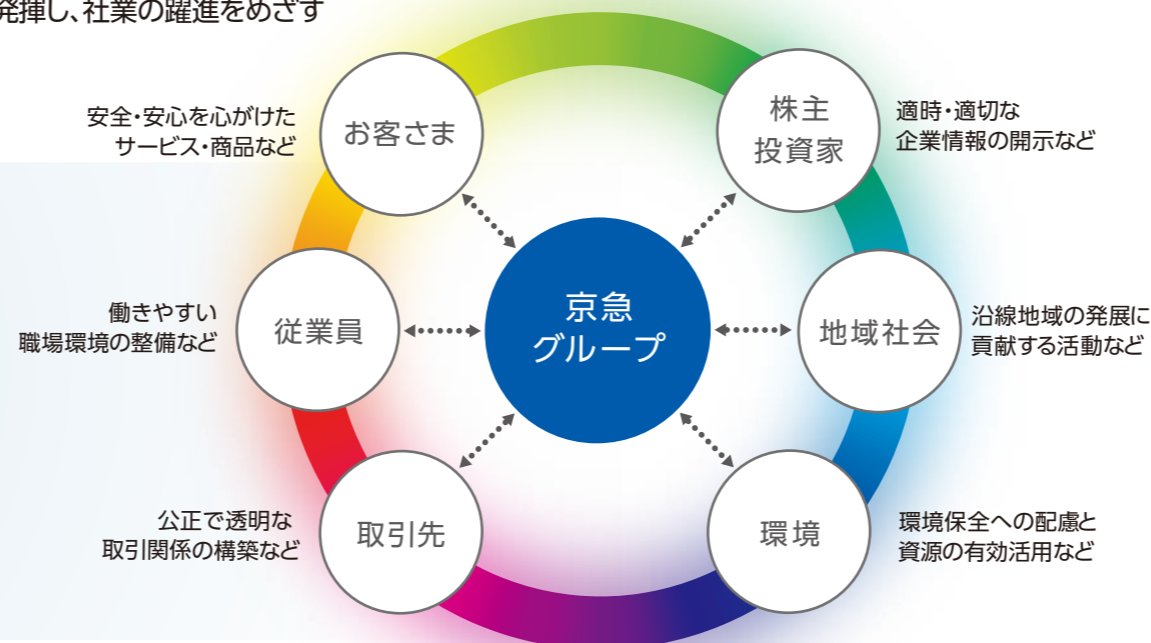
京急グループ理念

京急グループは、都市生活を支える事業を通して、新しい価値を創造し、社会の発展に貢献する
 京急グループは、伝統のもとに、創意あふれる清新な気風をもって、総合力を発揮し、社業の躍進をめざす
 京急グループは、グループの繁栄と全員の幸福との一致を追求する

京急グループCSR

京急グループは、沿線の生活者を支える企業集団として安全・安心を最優先に確保するとともに、コンプライアンスを重視した経営、地域社会への貢献、環境対策などにも取り組み、沿線価値の向上と企業価値の最大化に努めてまいります。

京急グループとステークホルダーとの関係



CONTENTS

- 1 グループ概要
- 3 TOP MESSAGE
- 5 TOPICS
「かながわ女性の活躍応援団結成」/ 第14回「日本鉄道賞」を受賞
- 7 [安全・安心への取り組み]
- 8 安全管理体制の構築・改善に向けた取り組み
Plan 安全重点施策 Do 安全に関する会議等
Check 鉄道安全監査の実施 Act 安全管理体制の見直しと継続的な改善
- 10 安全対策の実施状況
- 17 バスの取り組み
- 18 その他の取り組み
- 19 [環境への取り組み]
- 20 資源やエネルギーの有効活用 (低炭素社会の実現)
鉄道の取り組み/バスの取り組み/その他事業の取り組み
- 22 廃棄物の削減・再利用・再資源化
鉄道の取り組み/バスの取り組み/その他事業の取り組み
- 23 公共交通の利用促進
鉄道の利用促進/バスの利用促進/環境データ・環境会計
- 25 自然との共生・環境保全
京急油壺マリンパークの活動/森林の保全/啓発活動
- 26 その他環境への取り組み
- 27 [社会のために]
- 28 お客さまとのコミュニケーション
- 29 地域のために
- 30 子どもたちの未来のために
- 31 株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション
- 31 従業員のために
- 32 海外とのコミュニケーション
- 33 コーポレート・ガバナンス

編集方針

京急グループでは、ステークホルダーの皆さまにグループ各社の社会貢献活動、環境活動をお伝えするため、2008年に初めて「CSR報告書」を発行しました。発行にあたっては、ステークホルダーの皆さまへわかりやすく情報をご提供するよう、2015年度までにグループ各社で取り組んだ活動実績を中心に、活動の前提となる企業理念や組織体制もあわせて報告しています。

報告対象期間/2015年4月1日～2016年3月31日。
 (一部の活動は、2016年度の内容も含まれます。)

報告対象組織/京急電鉄を中心に、京急グループ63社。
 発行時期/2016年8月

参考にしたガイドライン/

- 「GRIサステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」
- 環境省「環境報告ガイドライン (2012年版)」



日々の暮らしの安全のために

京急グループは、鉄道・バスなどの交通事業を基幹に、不動産、レジャー・サービス、流通などの事業を営む企業グループです。これらの事業はお客様の日々の生活に密着しており、安全・安心な商品やサービスの提供は沿線の皆さまの暮らしを支える企業グループとして必須の要件です。とりわけ多くのお客様の生命をお預かりする交通事業は、昼夜を問わず安全への不断の取り組みが求められています。一たび事故が発生するとお客様に危険を及ぼすばかりではなく、運休に伴う混乱が沿線の皆さまの生活に影響を与えてしまいます。私たちは事故を未然に防ぐことを重点に災害対策、気象観測体制の整備や異常気象時の運転規制の強化などハード面の充実に力を入れるとともに、万一の事故を想定した鉄道事故復旧訓練やグループ全体で行う防災訓練などの各種訓練と日々の教育におけるソフト面の取り組みをとおして従業員全員の安全意識向上をめざしています。

リスクへの備え

これらの取り組みが評価され、昨年京急電鉄は、我が国最高水準の安定輸送を実現したとして、鉄道の日実行委員会から日本鉄道賞特別賞を受賞しました。これはハード面の改善や数々の創意工夫とともに長年培ってきたソフト面における人間優位の運行管理思想が評価されたものと考えています。これに奮ることなく今まで以上に気を引き締め安全・安心への取り組みに邁進していきます。

昨今は台風が多発や集中豪雨などの異常気象、それらに伴う災害の発生、個人情報を狙ったサイバー攻撃、さらには世界各地で頻発するテロ事案など安全・安心への脅威となるリスクが多数あるのも事実です。私たちはこれらを「発生しうるリスク」と捉え、対策の構築と見直し、訓練などをとおして常に想定範囲として対処できるよう取り組みをすすめています。

環境への取り組み

昨年11月にフランス・パリで開催された国連気候変動枠組条約第21回締結会議(COP21)において、今世紀後半までにすべての国がCO₂などの排出量実質ゼロをめざす新しい地球温暖化対策のルール「パリ協定」が採択されました。CO₂の計画的な削減は全世界共通の課題です。京急グループにおいても「京急グループ環境基本方針」および「行動指針」を定めており、担当者だけでなく、すべての従業員の意識付けを行い、グループ全体で鉄道・バスの利用促進や省エネ対策・リサイクル・自然環境保護などに積極的に取り組んでいます。なかでも鉄道・バスの利用促進は「ノルエコ」をキーワードに鉄道・バスに乗っていただくことがそのまま低炭素社会の実現に寄与するという発想のもとさまざまな活動を行っています。最近では地域の皆さまとタイアップしながら沿線の魅力を発信し、お客様の誘致

京急グループは安全・安心を最優先に、 誇りと責任をもって 事業に取り組んでまいります。

京浜急行電鉄株式会社
取締役社長

原田 一之

にも取り組んでおり、環境と地域活性化の両面で効果をあげてきています。

省エネ対策やリサイクルについては、ハイブリッドバスやLED照明の導入などお客様の目に直接触れる箇所への導入はほぼ一巡し、最近では技術の深度化により大規模建物のエネルギー使用状況の可視化や食品リサイクルなどお客様の目に触れない箇所での取り組みを強化しています。

豊かな沿線づくり

今後、我が国は、急速な少子高齢化と人口減少社会を迎えます。これは京急沿線においても例外ではなく、残念ながらすでに大幅な人口減少がすすんでいる地域もあります。しかし、気候温暖で自然の豊かな京急沿線には暮らしやすい環境が整っています。京急グループでは地域の活性化に少しでも役立てるように魅力ある商品の開発やウォーキングなどのイベントをとおして沿線地域の魅力の発信に貢献したいと考えています。

また、分譲マンションの建設・販売・管理を一体化し、住まいのクオリティを高め、良質な住まい・暮らしを提供する体制を構築するとともに、昨年12月から朝ラッシュ時における着席サービスの向上をめざし「モーニング・ウィング号」の運転を開始しました。今後も沿線の皆さまがより安心により快適に生活できるようさまざまな取り組みをすすめ、京急沿線に住んで良かったと思える豊かな沿線づくりをめざしていきます。

品川・羽田のにぎわいを沿線に

京急グループの玄関口でもある品川駅周辺では、その利便性や集客性を活かして駅と周辺が一体となった街づくりの計画がすすんでいます。京急グループにおいても品川駅周辺の発展を沿線全体の活性化につなげていきたいと考えており、品川駅の改良工事や踏切道の解消、駅周辺のエリア開発などをとおして国内外の多くの人々が行き交う環境の整備を行っています。

品川駅から京急線で最速11分の羽田空港は、段階的な発着

枠の拡大もあって2014年度は国内線・国際線あわせて年間約7,000万人の利用がありました。京急グループでは、早朝深夜便にあわせてリムジンバスの運行や定額タクシーの運行、空港近隣の温泉施設の24時間営業などを行い、お客様の利便性向上に寄与する取り組みをすすめています。また、訪日外国人旅行者数も2015年度は1,973万人を超えて過去最高を記録し、政府は2020年までに年間4,000万人の目標をたてています。京急電鉄では、国内外の航空会社とのタイアップキャンペーンや台湾鉄道局およびタイ・SRTETとの友好鉄道協定の締結などをとおして羽田空港アクセスの利便性を国内外にアピールするとともにツーリストインフォメーションセンターでの日・英・中・韓4か国語でのご案内、英語・中国語(繁体字) Facebookの開設、無料Wi-Fiサービスの拡大、駅務機器の多言語化、駅ナカへの免税店開設などをとおして日本を訪れるお客様に不自由なくご利用いただけるような環境整備に努めています。京急グループでは品川・羽田両エリアを軸に沿線ににぎわいと豊かさを創出する取り組みをすすめています。

企業の社会的責任を果たすために

昨年京急電鉄は、神奈川県「かながわ女性の活躍応援団」となりました。これは支援制度と各種研修の活用により女性の活躍を応援するとともに女性管理職の着実な増加を計画するものです。京急グループでは、性別に限らず、障がい者雇用や高齢者雇用も積極的にすすめており、多様な従業員が活躍できる職場環境づくりをめざしています。このような土壌から、顧客満足度の充実、地域に密着したCSR活動、適時・適切な情報開示などステークホルダーの皆さまとの良好な関係が築けるものと確信しています。

京急グループは「都市生活を支える事業を通して、新しい価値を創造し、社会の発展に貢献する」との企業理念のもと安全・安心を最優先に、誇りと責任を持って事業に取り組んでまいります。皆さまの変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



「かながわ女性の活躍応援団」 結成に参画しました。



池田 典義 (京急アイネット 取締役会長) 原田 一之 (京急電鉄 取締役社長) 魚谷 雅彦 (京急電鉄 代表取締役 執行役員社長) 木本 茂 (東武 取締役社長) 津久井 宏 (東武 代表取締役社長) 黒岩 祐治 (神奈川県 知事) 川名 浩一 (日産 代表取締役社長) カルロス・ゴーン (日産自動車 代表取締役社長 兼 最高経営責任者) 宮島 和美 (西ファンケル 代表取締役 社長執行役員) 田中 達也 (富士通 代表取締役社長) 寺澤 辰磨 (西武銀行 代表取締役)

※写真は結成時(2015年11月)のものです。

神奈川県は、性別に関係なく個性と能力を発揮できる社会をめざし、2015年11月に知事を団長とした「かながわ女性の活躍応援団」を結成しました。

京急電鉄も取締役社長の原田一之が結成メンバーに参加しています。

応援団の役割

- 1 女性の活躍を推進するために、自社で取り組んでいる内容および今後の取り組み内容を「行動宣言」として発信
- 2 女性の活躍推進に関する取り組み、社会的ムーブメントを関連会社等へ広げるための積極的な働きかけ
- 3 県が実施する企業向け啓発講座に講師として参加等

京急の取り組み

京急グループは、働く女性を応援することは、お客さまに優しく、より便利なサービスを拡充していくことに繋がり、鉄道事業者としての使命であると考えます。

- 総合職採用の女性比率 30%以上をめざします。
- 女性のキャリア形成を支援する仕組みを整備します。
- 女性にとって働きやすい制度・設備を整備します。
- 2020年までに、女性管理職を30%増やします。

ムーブメント拡大のために

- 公共交通を担う企業として、より女性が利用しやすいサービス、施設の拡充をめざします。
- 京急グループ内で、女性の活躍推進のための取り組みを共有し拡大していきます。
- 広報・IR・採用活動等を通じた、上記取り組みのPRをすることで、女性の活躍推進に寄与します。



京急グループの鉄道現業や本社管理職などに従事する女性社員の活躍を紹介。

-応援サイト内-
我が社の
活躍ウーマン
レポート

第14回 日本鉄道賞 「高度な安定輸送実現」特別賞を受賞しました。



2015年10月14日、第14回「日本鉄道賞」の表彰式が執り行われ、京急電鉄が「わが国最高水準の安定輸送の実現」として「高度な安定輸送実現」特別賞を受賞しました。

日本鉄道賞とは

日本鉄道賞は鉄道に対する国民の理解と関心を深め、国民の強力な支持を得るとともに、鉄道の一層の発展を期することを目的として創設された表彰制度です。

日本鉄道賞表彰選考委員会によって表彰者が選出されます。

選考の主な理由

「わが国最高水準の安定輸送の実現」

- 極めて利便性の高い高頻度・高速運転や相互直通サービス、そして高い安全性を確保しつつ、列車の遅延を最小限に抑制した、わが国で最高水準の安定輸送を着実に提供し社会に大きく貢献した――
- 線路配線や信号などの地上施設、運行管理システムなどの設備の改良、先頭車両の動力化といった、ハード面の改善と工夫を長期にわたって営々と積み重ねてきた――
- 高度なプロフェッショナリズムへのゆるぎない信念に基づいた「人間優位」の運行管理思想を社内の隅々まで徹底した――

(以上、選考理由から抜粋)



記念の盾には、安定輸送の実現に励む京急社員の姿があります。

安全・安心への取り組み

京急グループでは、すべての事業において安全・安心を最優先し、その確保に全力を傾けています。特に基幹事業である鉄道事業においては、
 鉄道安全管理規程に定めた安全管理体制のもと、
 安全・安定輸送の確保に努めています。

安全方針

- 1 安全最優先の意識の徹底を図るとともに、鉄道安全管理規程に基づき、安全確保に全力を傾ける。
- 2 お客さまや社会の信頼に応えるため、法令や規程等を順守し、厳正・誠実に職務を遂行する。

2015年度 鉄道本部 安全重点施策

『安全・安定輸送を継続し、お客さまからの確かな信頼を獲得する』
 一人ひとりが鉄道の使命、責任を自覚し、一致協力して京急の安全に取り組もう

具体的な目標

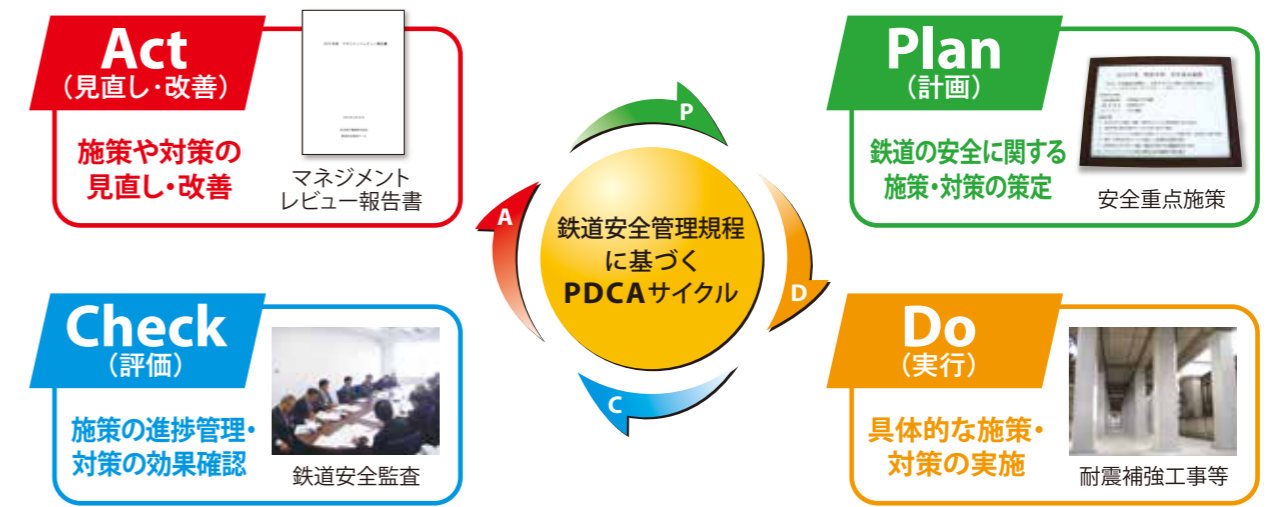
- ▶ 鉄道運転事故 有責事故0件の継続
- ▶ 輸送障害 内部要因0件
- ▶ インシデント 0件の継続

取組計画

1. 安全に対する意識・知識・技術を向上させる教育訓練の更なる強化
2. 基本作業の確実な励行につなげる取り組みの強化
3. リスクアセスメントを活用した事故・ヒヤリハットの原因分析、再発防止対策の強化
4. 事故・自然災害等のリスクを想定した多面的な対策の強化
5. 安全性向上のための、設備・施設を充実させる継続的な取り組み
6. コミュニケーションの充実を図るための継続的な取り組み

安全管理体制の構築・改善に向けた取り組み

安全管理体制は、計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→見直し・改善(Act)の体制(PCDAサイクル)を維持していくことが大切です。
 当社では、鉄道安全管理規程をはじめ、現在行なっている体制を常に見直し、改善に向けた取り組みを行なっています。



安全重点施策 Plan

目標達成への具体的な取組計画を、鉄道本部安全重点施策において定めています(詳細はP.7安全重点施策をご覧ください)。

安全に関する会議等 Do

取締役社長・安全統括管理者による職場巡視

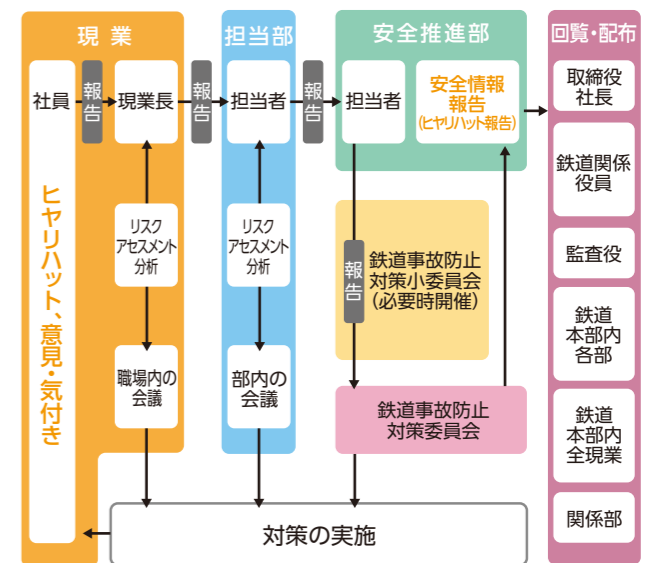
取締役社長や安全統括管理者をはじめとする、役員および鉄道本部内の各部長が、鉄道の安全を支える現業を巡視し、現場の取り組み状況を確認するとともに、意見交換を行い、社員の安全意識の高揚を図っています。



ヒヤリハットの収集・活用

「ヒヤリハット」や安全に関する「意見・気付き」等、輸送の安全に係る情報については、体系的に集約・活用する体制を整備しています。

ヒヤリハット報告の流れ



【スロープの設置】

ドラム缶を油脂庫に戻す際、後ろ向きに歩きながら油脂庫に搬入しようとしたところ、入口の段差に足が引っかかり転倒しそうになったという事象を受けて、入口部分にスロープを設置して段差を解消しました。



改善前

改善後

安全管理体制の構築・改善に向けた取り組み

社員教育

■ 事故資料展示室の整備・教習

過去の鉄道事故の資料を通じて、事故・災害対応の体験を共有し、危機感を高めるとともに事故からの教訓を学ぶ、社員専用の教習施設として、事故資料展示室を2008年12月に整備しました。その後も、さらなる活性化を図るため、ビデオやスライド等の資料拡充を図っています。

鉄道本内部各部を中心に、延べ約3,600名を越える社員や関係者が教習を受けています。今後も、この資料室を積極的に活用し、安全意識の高揚を図っていきます。

※社員研修施設のため、一般公開は行なっていません。

■ 乗務員の養成

当社の乗務員は、運転士373名、車掌373名(2016年3月末現在)が在籍しています。

運転士の養成は、国土交通省の指定を受けた動力車操縦者養成所である運転車両部管理課育成センターが行っており、学科4か月・技能6か月の計10か月にわたる講習を行い、専門的な知識を習得させています。また、車掌も同様に、車掌業務に必要な知識について、学科1か月・技能2か月の計3か月の講習を行っています。

当社では運転士教習用に実物大の模擬車両を使用した運転シミュレータを1997年に、CG画像でドア操作体験ができる車掌用シミュレータを2006年に導入し、乗務員の知識・技能のさらなる向上を図っています。



■ 保守作業員等の教育

車両・施設係員に求められる技術力の向上を図ることを主な目的として、金沢文庫駅構内D地区に教育訓練線を設置しています。

その中には、カント(傾斜)をつけた脱線復旧訓練線も設置しています。

年度計画に基づき、これらの施設を活用し、知識・技術力のレベルアップを目指したさまざまな教育訓練を実施しています。



■ ホーム立哨技能測定・営業関係効果測定の実施

知識・技能向上による安全・安心の確保を目指し、全駅係員を対象とした実技形式によるホーム立哨技能測定と、ペーパーテスト形式による営業関係効果測定を年1回実施しています。



各種訓練の実施

■ 鉄道事故復旧訓練

万一、重大事故が発生した際に迅速に対応できるよう、毎年秋に実施している総合訓練です。2015年度は、「動作中の踏切道内に侵入した自動車と衝突し列車が脱線、乗客に負傷者が発生し、線路・電気・通信設備が損傷する」という設定で訓練を行いました。この訓練は、毎年、お客さまへの公開を行っており、2015年度は約100名のお客さまにご見学いただいています。



■ 鉄道本部防災訓練

大規模地震を想定した訓練として、毎年防災週間に実施しています。東海地震の警戒宣言発令を想定した予知対応訓練、その後地震が発生し、災害が起きたことを想定する発災対応訓練を実施しました。また、2015年度は金沢文庫現業事務所内に危機対策本部の設置および京浜急行バスグループと危機対策総本部を通じて運行情報を相互に共有する訓練を合わせて実施しました。



■ テロ対策訓練

万一の鉄道を狙ったテロが発生した際に、機敏な対応が取れるよう、お客さまの避難誘導體制や警察・消防等との連絡通報協力体制を確認するため実施している訓練です。2015年度は、車内で異臭がしていることを想定し、有毒化学物質によるテロを想定したテロ対策訓練を実施しました。



鉄道安全監査の実施

Check

鉄道安全監査

鉄道の安全管理体制の強化プロセスの確認として、現状を整理し、問題点を把握して、見直し・改善へつなげる取り組みを行うため、毎年、鉄道安全監査を実施しています。

2015年度鉄道安全監査では、取締役社長以下、鉄道の安全確保について重要な役割を担う各管理者に対して、書類や記録の確認のほか、直接鉄道業務にかかわる管理者に対してはインタビュー形式による監査を行い、鉄道安全管理規程に基づく安全管理体制の構築状況について確認をしました。

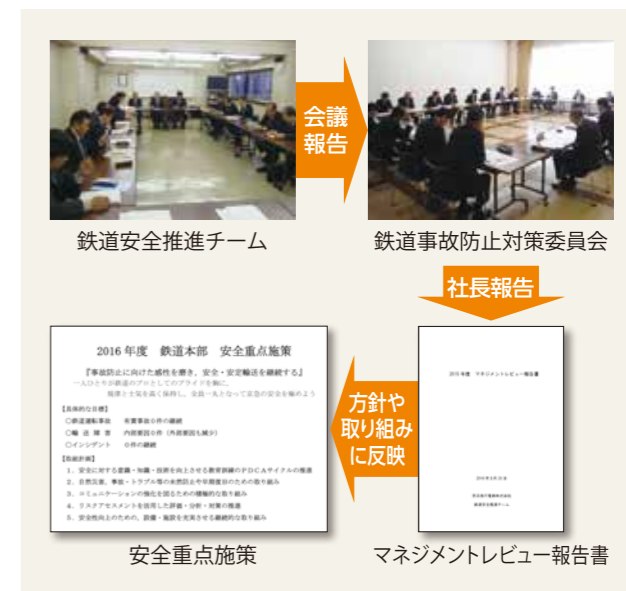


安全管理体制の見直しと継続的な改善

Act

マネジメントレビュー

鉄道の安全管理体制が有効に機能しているかについて総括するマネジメントレビューを行い、年度末に安全管理体制の実態と課題を網羅した「マネジメントレビュー報告書」を作成し、次年度の安全重点施策や各種取り組み等に反映させています。

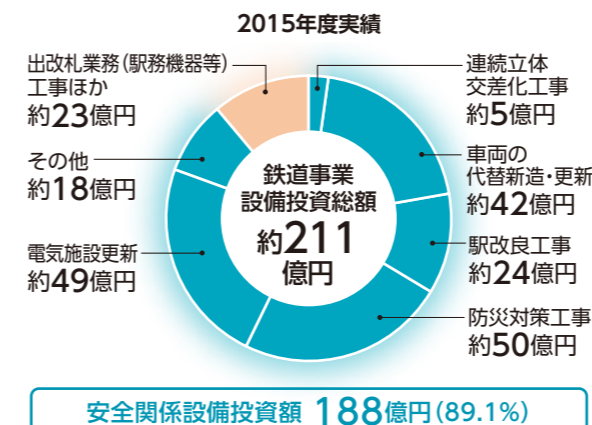


安全対策の実施状況

2015年度の取り組みをはじめ、様々な当社の安全対策を紹介します。

安全対策への設備投資

当社では、中長期的視点から安全対策への設備投資を継続的に実施しており、2015年度実績では、約211億円の鉄道事業設備投資を行いました。これらの投資は、様々な面で鉄道の安全対策に関係する投資といえますが、中でも、特に安全に密接な関係のある設備投資については、2015年度実績において約188億円で、これは鉄道事業における設備投資額のおよそ9割にあたります。



自然災害対策

■ 地震対策 耐震補強工事

2015年度は泉岳寺～北品川駅間、新馬場～青物横丁駅間、大森海岸～平和島駅間、六郷土手～京急川崎駅間、鶴見市場～花月園前駅間および弘明寺～上大岡駅間の一部が完成し、引き続き工事を行っています。



安全対策の実施状況

橋上駅舎耐震補強工事

橋上駅舎耐震補強工事につきましては、2015年度は4駅(京急新子安駅・杉田駅・追浜駅・六浦駅)に着手し、2016年度中に完了予定です。



法面防護工事

法面防護工事を推進しており、2015年度では、南太田～井土ヶ谷駅間上り線側、追浜～京急田浦駅間下り線側に工事を完了しています。

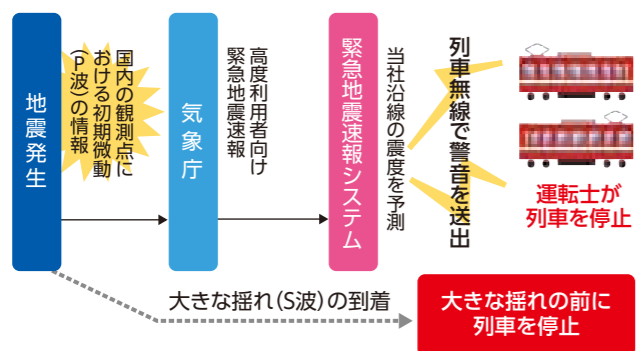


緊急地震速報システム

気象庁が発表する緊急地震速報を利用し、当社線に被害が予測される場合に、全列車の運転台に自動的に警音を送信することにより、運転士が列車を安全と思われる場所に緊急停止させる「緊急地震速報システム」を2006年8月に設置し、稼働させています。



緊急地震速報システム



※当社の緊急地震速報システムでは、いち早く列車に警音を送出するため、一般向けの緊急地震速報の情報とは異なる、迅速性に優れた高度利用者向け緊急地震速報の情報を活用しています。

その他の自然災害対策

気象観測装置の整備

地震や強風、降雨など、気象状況を的確に把握するため、様々な観測装置を設置しています。また、気象庁の「降水ナウキャスト」等を活用した気象情報システムを導入し、気象情報などの収集を図っています。



自治体と津波避難協定の締結

金沢文庫現業事務所改築工事完成に伴い、横浜市金沢区と「津波発生時における施設等の提供協力に関する協定」を締結しました。この協定は、大津波警報または津波警報発令時に、緊急に避難する必要が生じたとき、津波避難者に対して金沢文庫現業事務所を一時避難場所として開放し、受け入れるものです。(2014年2月19日付け)



お客さま対応の充実

災害時の緊急避難場所の案内図を全駅に掲出

東日本大震災の対応を踏まえ、2011年度に避難誘導先の再整理を行いました。

震度5強以上の地震が発生した場合、大規模火災が発生した場合、津波のおそれがある場合の3種類に加え、案内図掲出場所の海拔を表示、全駅に掲出しています。



帰宅困難者向け備蓄品の配備

大規模災害発生時において、帰宅が困難になったお客さま向けに、備蓄を進めています。2012年度に全駅に、飲料水、アルミ製ブランケット、レジャーシートを配備しました。また、非常用トイレについても追加配備しています。



駅案内用タブレットの導入

お客さま対応の充実を図るため、駅案内用タブレット端末を全駅に導入しました。

ダイヤ乱れ等の際に、列車運行情報(TID)を駅係員が把握し、適切なご案内を可能にしました。また、翻訳や路線検索等のアプリを活用し、増加する訪日外国人のお客さまに対しても適切なご案内に努めています。



防犯・鉄道テロ対策

防犯カメラの増設

駅構内への防犯カメラの増設を進めています。2015年度末時点で693台設置しており、今後も増設を予定しています。

また、羽田空港国際線ターミナル駅には映像からカートや不審物等の不動物物を検出する「放置物探知機能」を一部の防犯カメラに導入しています。



駅係員・警備員による巡回

鉄道テロ対策の一環として、駅係員や警備員による巡回を行っています。駅係員の巡回時には、「警戒」と記された腕章を着用のうえ、実施しています。

また、状況に応じて、警備員の配備体制を変更し、駅や車内の警備体制の強化を図っています。



緊急時対応の体制

緊急時支援活動用ワッペン

職員が通勤時および私用などで当社線を利用している際に、事故や災害などに遭遇し、急遽現場にて支援活動を行う際の緊急時支援活動用ワッペンを配布しています。このワッペンは常に携帯しており、緊急時には胸元に貼り付け支援活動を行います。



非常脱出ハシゴの整備

万一、事故等が発生した際に、お客さまのホーム以外における車外への避難誘導を考慮し、非常脱出ハシゴを2007年度の新造車両から搭載しているほか、すべての駅および沿線の駅間距離の長い場所にも設置しています。



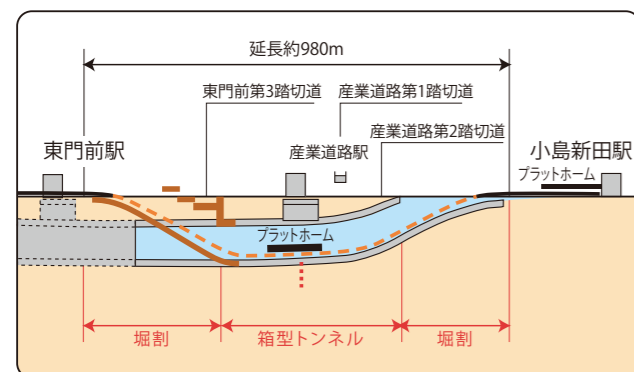
安全対策の実施状況

連続立体交差事業

大師線連続立体交差事業

川崎市の都市計画事業として行われている、大師線連続立体交差事業(地下化)のうち、段階的整備区間として、2006年9月から、東門前駅付近～小島新田駅付近の約980mの区間において地下化工事を行っています。この工事により、産業道路第1踏切道(東京大師横浜線)を含む3か所(東門前第3踏切道・産業道路第1・第2踏切道)の踏切道がなくなります。2016年度は、掘削・躯体工事を引き続き進めています。

なお、大師線連続立体交差事業(地下化)は、大師線約5kmのほぼ全線を地下化することにより、計14か所の踏切道を廃止し、踏切事故や交通渋滞を解消し、安全性の向上や道路交通の円滑化を図るものです。



※連続立体交差事業は「川崎市が事業主体」となり、「道路整備」の一環として施行する都市計画事業です。

京急蒲田駅付近連続立体交差事業

現在、京急蒲田駅付近で行っているこの事業は、平和島駅から六郷土手駅まで約4.7km、および京急蒲田駅から大鳥居駅まで約1.3kmの合計約6.0kmを立体交差化し、環状8号線および国道15号(第一京浜)を含む28箇所の踏切を除去するもので、事業により踏切事故や道路渋滞を解消し、安全性の向上や交通の円滑化を図ります。

事業は2001年から着手しており、2012年10月に全線高架化したことにより、事業区間の28箇所すべての踏切が廃止され、鉄道と道路の安全性が大きく向上したほか、踏切による交通渋滞が解消しました。

引き続き、本線における取付け区間の線路移設および高架下整備工事等を行い、2016年度末(予定)の事業完成に向け、工事を進めています。



※連続立体交差事業は「東京都が事業主体」となり、「道路整備」の一環として施行する都市計画事業です。

施設の安全対策

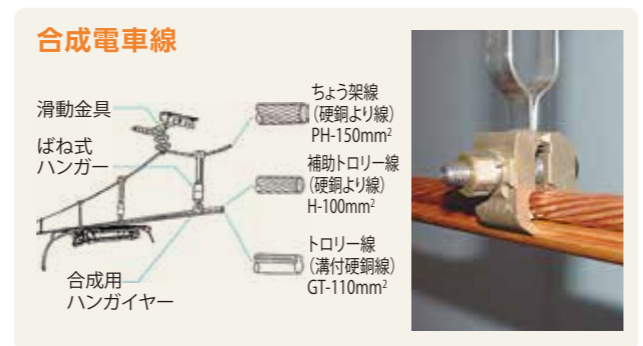
列車無線デジタルSRの導入

列車無線装置は、従来のIR(誘導無線)方式からSR(空間波デジタル)方式に改良を実施し、司令と乗務員間の通話音質の向上を図るとともに、今後は、乗務員に対して文字による情報伝達手段を導入していきます。



合成電車線の導入

電車へ電気を送る電車線は、一般的にはシンプルカテナリー方式を採用していますが、災害時に電車線断線事故を発生させる恐れがあるため、当社では補助トロリー線をトロリー線の上に添えて電氣的・機械的に2本の電線を一体化させた、当社独自の合成電車線を採用しています。今後も合成電車線への更新工事を順次進め、列車の安全・安定輸送を図っています。



監視カメラ(POTV)の更新

駅において、車掌や駅係員がドア操作時に側面を確認する監視カメラ(POTV)を55駅412台設置しています。なお、順次カメラおよびモニターの更新を行い、視認性向上を図っています。



駅の安全対策

監視カメラ(POTV)
車掌がドア操作時に安全を確認する監視カメラ(POTV)を設置しています。

非常停止ボタン
ホーム上の非常停止ボタンを押すことで、運転士に危険を知らせることができる装置を当社全駅に設置し、事故防止を図っています。また、視認性を向上させるために、押しボタンを示す大型の表示板を設置しています。

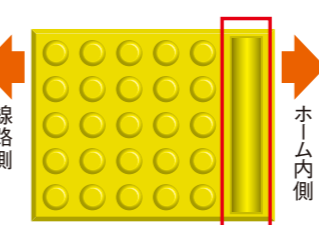
列車接近案内表示装置
列車接近案内表示装置

足下灯(そっかとう)
ホームと車両の隙間が空いている駅においては、従来からの足を照らす照明をつけていますが、より気づきやすく自動点滅式の足下灯(そっかとう)を設置し、注意喚起を行っており、現在17駅に設置しています。

ホームステップ
万一、お客さまがホームから転落した際に、ホーム下等へ避難困難な箇所を速やかにホーム上へ避難できるように、ホームステップを設置しています。

内方線付き点状ブロックおよび内方線の設置

乗降人員が一日10万人以上の品川駅・京急川崎駅・横浜駅・上大岡駅における内方線付きJIS規格対応の点状ブロックの整備は2012年度迄に完了しています。さらに、一日10万人未満の駅のうち内方線の設置されていない駅についても設置を進めています。



CPライン(Color Psychology)の設置

ホームの先端に赤いラインを明示し乗降時のお客さまの注意喚起を図るため、「CPライン」を設置しています。2015年度末現在、11駅に設置しています。



死傷事故の減少に向けた青色照明の設置

自殺による死傷事故の減少に向けて、人の精神を落ち着かせるといわれる青色照明を弘明寺駅構内に導入して以降、順次設置を進め、2015年度には六郷土手駅・京急新子安駅および杉田駅に新たに導入しました。現在全線で18駅、4箇所の踏切道に設置しています。



AED(自動体外式除細動器)の全駅設置

安全に安心してご利用いただける駅を目指し、AED(自動体外式除細動器)を、泉岳寺を除く全72駅(81台)に設置しています。



車両の安全対策

非常脱出ハシゴの整備
万一、事故等が発生した際に、お客さまのホーム以外における車外への避難誘導を考慮し、非常脱出ハシゴを2007年度の新造車両から搭載しているほか、すべての駅および駅間距離の長い場所の沿線にも整備しています。

車いす・ベビーカーステッカー

消火器ステッカー

消火器

非常通報器
車内で非常事態等が発生した場合に乗務員に通報する装置として全車両に非常通報器を設置しています。また、乗務員との通話が可能な通報器が2015年度末現在、全車両数790両のうち674両に設置されています。

ドア先端部の黄色表示・ドア注意ステッカー
2012年度から当社所有の全車両に、ドア内側戸先に黄色表示を行い、ドア開閉の動きをわかりやすくしているほか、ドアに「ドア注意ステッカー」を貼付するなど、安全性・快適性に配慮しています。

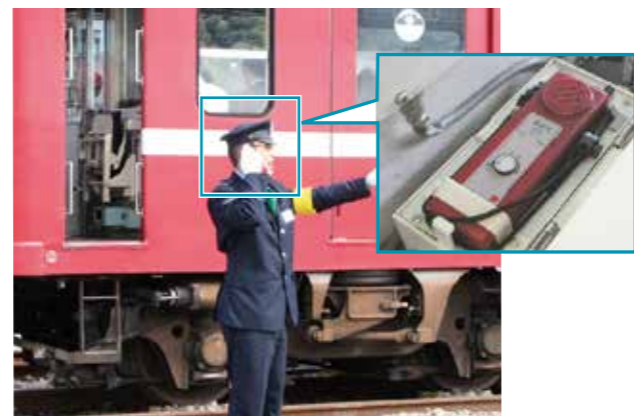
車両の代替新造・更新・改造

毎年度、継続的に車両の新造を進めており、2015年度は20両導入したほか、現有車両についても、車体や制御装置の更新・改造や火災対策基準への対応、バリアフリー化などを行い、安全性、快適性の向上に努めています。



携帯型列車無線機

運輸司令と乗務員室との間で通話ができる列車無線装置については、乗務員室から離れても通話できるよう、携帯型列車無線機をすべての運転台へ搭載しています。
また、新たに通話音質の向上を目的に導入した、空間波列車無線装置 (SR) に対応した携帯型列車無線機の導入を開始します。



踏切道の安全対策

オーバーハング型警報機
遠くからも踏切の存在が分かるように、高い位置に警報灯を設置しています。

全方向型踏切警報灯
どの角度からも点滅が確認できる全方向型踏切警報灯を導入しています。

非常ボタン
踏切道の非常ボタンを押すことで、踏切道内に異常があることを運転士に知らせるための装置を全ての踏切道に設置し、事故の防止を図っています。

看板の設置
踏切注意

障害物検知装置
踏切道にて自動車などの立ち往生を自動的に検知する装置を64箇所の踏切道に設置しています。なお、一部の踏切道では、レーザーヘッドよりレーザー光を検知エリアに照射して、滞留する物体を検知する三次元レーザー方式を導入し、踏切道における安全性向上を図っています。

警報機・遮断機

当社線にある全ての踏切道 (90箇所) に設置しています。



発光信号機

非常ボタンの操作または障害物検知装置が障害物を検知すると発光信号 (赤色灯の明滅) を発光し、列車の運転士に対して異常を知らせる信号機を全ての踏切道に設置しています。



踏切脱線防止ガード

自動車が通行する踏切道においては、列車の進行方向約24mの区間に踏切脱線防止ガードをレールの両側に設置し、万一、自動車等と衝突した際の脱線を防止しています。



カラー舗装化

一部の踏切道では踏切道内における歩行者の安全確保のため、車道部分と歩道部分を視覚的に区分するカラー舗装化を実施しています。



バスの取り組み

バス事業では、安全で安心な輸送のために、日々チェックを繰り返しながら事故の未然防止と再発防止体制の向上を追求しています。乗務員の運転技術を磨くことはもちろん、万一の事態に備えた訓練を実施し対応力の強化を図っています。

運輸安全マネジメント

ヒューマンエラーを原因とする事故などの多発を受け、2006年10月より開始された国の制度「運輸安全マネジメント」。この規範に基づいた安全管理規程を制定し、全職員が一丸となってたえず輸送の安全確保に取り組み、さらなる改善に努めています。

京浜急行バスグループおよび川崎鶴見臨港バスの輸送の安全に関する基本方針および「輸送の安全に関する目標および事故統計」は、各社Webサイト上でご覧いただけます。

京浜急行バス
<http://www.keikyu-bus.co.jp/company/program/>
 トップページ▶会社情報▶バスの取り組み▶運輸安全マネジメントに関する取り組み

川崎鶴見臨港バス
<http://www.rinkobus.co.jp>
 トップページ▶そのほかのご案内▶運輸安全マネジメントに関する取り組み

バスジャック想定訓練

テロ企図者によるバスジャックを想定した訓練を神奈川県警と合同で実施しました。訓練は、刃物と液体の入ったポリ容器を持った犯人により京急リムジンバスがバスジャックされたとの想定で行われました。



ドライブレコーダーの導入

万一事故などのトラブルが発生した際に、その原因究明を正確かつ客観的に行うため、常時録画型ドライブレコーダーを導入し、運行状況を記録するデジタルタコグラフとあわせて安全運転の指導や事故再発対策に活用しています。

また、より精緻な事故分析能力向上のために精度の高い最新機器への更新とカメラの増設を順次行っています。



交通安全キャンペーン

年末年始の安全総点検運動の一環として毎年12月に実施。京急バス沿線の主要駅周辺で、職員が歩行者に交通安全の呼びかけを行うとともに、安全啓発を促すオリジナルグッズを配布しています。



社長現場巡視

安全確保や業務の円滑化、サービスの向上を目的に、夏季や年末年始の前に社長・役員が現業社員を激励しています。社長からの訓示に応え、職場ごとに所長が安心・安全輸送の完遂を誓います。



安全運転研修

茨城県ひたちなか市の安全運転中央研修所では、若年乗務員ならびに子会社の新入社員を対象に安全な旅客輸送に必要な知識・技能に関する講義や実技学習を行っています。同時に、中堅乗務員ならびに子会社を含む指導的立場にある乗務員を対象としたフォロー研修を実施しています。



添乗指導・点呼指導

作業基準に定められた運行や出入庫の点呼、お客さまへの注意喚起・マナーなどが適切に守られているかを、添乗指導員や管理職が抜き打ちでチェックし、フィードバックしています。



津波対策として避難場所を明示

大きな地震が発生して津波警報が発令された際に、安全な場所へ避難する目安として、バス車内に避難場所を明示しています。具体的には、車内に掲出している運行系統図を活用、神奈川県、神奈川県内市町村および大田区発行の津波ハザードマップをもとにした浸水予想地域を緑青色で着色すると同時に、震災時避難場所、津波避難場所および津波避難ビルの位置を示しています。



【掲載場所】◎三崎営業所 ◎久里浜営業所 ◎衣笠営業所 ◎返子営業所
 ◎能見台営業所 ◎追浜営業所 ◎堀内営業所 ◎鎌倉営業所
 ◎大森営業所 ◎東京営業所 ◎杉田営業所

その他の取り組み

災害を想定した各種訓練の実施、マニュアルの整備などのほか、「食の安全」についても重要視し、食材の品質管理や従業員の衛生管理などを徹底しています。

防災訓練など

■ 京急グループ

毎年防災週間にあわせ「京急グループ合同防災訓練」を実施しています。2015年度は東海地震の警戒宣言発令・震度6強の地震発生を想定し、当社沿線にある施設内に社長を総本部長とする危機対策総本部を設置して、関係部署間での情報伝達訓練やグループ全社員を対象とした安否登録訓練を実施しました。なお、鉄道部門においても電車の減速訓練・一旦停止訓練等を行いました。



■ 京急百貨店

お客さまに安心してご購入いただける店舗環境づくりの一環として、各フロアにAEDを設置。災害時に歩行困難な方を運ぶイーバッグチェアと呼ばれる階段避難車も導入し、従業員教育として講習会も行っていきます。



安全・安心の食材の提供

■ 京急百貨店

毎月1回、食品の安全衛生に関する委員会を開催し、食品売場とレストランでの定期検査結果の確認などを行っています。またレストランの各店舗においても、毎月第三者機関による食品と器具の抜き取り検査などを行っています。さらには食品およびレストランの店長などを対象に、港南福祉保健センターの講師による「食品衛生責任者」講習を定期的に行っています。



■ 京急ストア

社内に食品安全委員会を設置し、食の安全・安心について全社的な対応を図っています。また、各店舗においては、従業員に対して定期的な腸内細菌検査の実施や食品衛生に関する教育を行っているほか、外部機関に委託し、商品の細菌検査を実施するなど、食の安全管理に細心の注意を払っています。



■ 京急フードサービス

各フランチャイズが定める食材取り扱い基準に従い、品質管理を行っています。また直営店舗に関しても独自の食材管理基準を定め、定期的に店舗衛生検査を実施し、厨房環境の維持を図っています。あわせて従業員の腸内検査を定期的に行い、異常が認められる従業員に対しては指導を行うなど、感染症の拡大防止に努めています。



使いやすい駅トイレへ

京急電鉄では、各駅の改修工事にあわせてお客さま用トイレのバリアフリー化をすすめています。また、2015年度には全駅のお客さま用トイレ洗面台に石けん水を配置し、衛生面の向上を図りました。



暴力行為防止キャンペーン

横浜駅において、同駅に乗り入れる各社局、神奈川県警察および国土交通省関東運輸局と合同で係員への暴力行為防止キャンペーンを実施しました。



環境への取り組み

京急グループでは、「京急グループ環境基本方針」およびその「行動指針」に則り、鉄道・バスの利用促進「ノルエコ」の推進をはじめとし、省エネ対策・リサイクル・自然環境保全等について、グループ各社の特色を活かし、取り組んでいます。

京急グループ環境基本方針

私たちは、あらゆる事業活動や社会貢献活動を通じて、地球環境の保全と環境負荷低減に努め、持続的発展が可能な社会の形成に貢献します。

行動指針

- ▶ 私たちは、環境にやさしい公共交通機関を中心に、さらなる利便性の向上と魅力ある沿線価値の創造に努めます。
- ▶ 私たちは、資源やエネルギーの有効活用と、廃棄物の削減・再利用・再資源化への取り組みを通じ、環境負荷の低減に努めます。
- ▶ 私たちは、次世代を担う子ども達に、より良い沿線環境を引き継ぐため、沿線の豊かな自然との共生・保全に努めます。
- ▶ 私たちは、あらゆるステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切に、地域社会との協調・連携に努めます。
- ▶ 私たちは、環境に関する法令等を正しく理解・順守するとともに、啓発・教育活動を通じて、社員一人ひとりの環境意識の向上に努めます。

資源やエネルギーの有効活用(低炭素社会の実現)

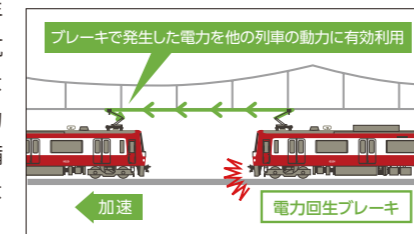
京急グループでは、さまざまな事業運営で多くの資源やエネルギーを消費しています。鉄道やバスでは、エネルギー効率に優れた新型車両の導入をすすめているほか、駅や事業用建物においても、LED照明やエネルギー管理システムの導入などにより省エネルギー化を推進し、低炭素社会の実現を目指します。

鉄道の取り組み

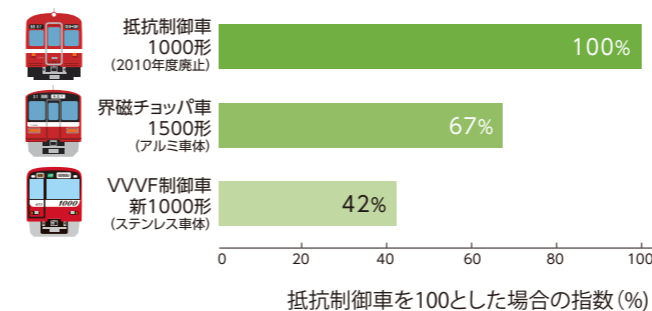
省エネルギー車両導入の推進

■ 電力回生ブレーキ

電車のブレーキ時に発生する電力を架線に戻し、ほかの電車の動力源として有効活用できる「電力回生ブレーキ」を備えた「界磁チョップ制御方式」を1978年度から採用。1990年度からは、さらに電力回生効率を高めた「VVVF制御方式」を採用しています。なお、2010年度に従来型の抵抗制御車両が廃止となり、全車両が「電力回生ブレーキ」を備えた省エネ車両となりました。



車種による運用エネルギーの違い



■ LED照明の導入

2012年3月以降に新造・更新を行った車両については、客室照明すべてにLEDを採用しています。従来の蛍光灯に比べ、照明の消費電力を約3割削減できるこれらの車両には、室内両端およびドア上にLED照明であることをお知らせする案内を掲示しています。



CO₂の排出を削減し、環境への負荷を低減

■ 薄膜太陽光発電システムの導入

神奈川県補助金事業として南太田駅と金沢文庫駅に薄膜太陽光設備を導入しました。駅前街路灯や駅構内照明に活用しています。



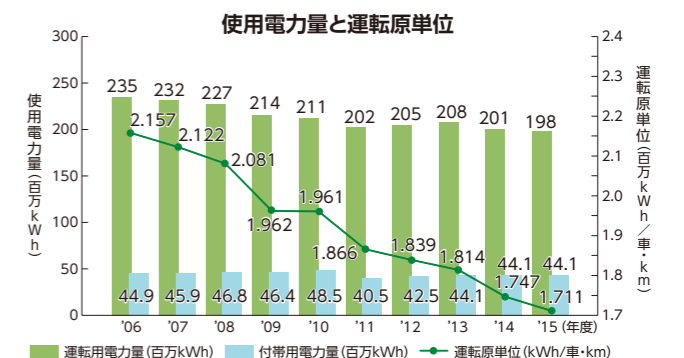
■ 電気自動車の導入

日産自動車株式会社の募集する「e-NV200フリートモニターキャンペーン(商用自動車の3年間無償貸与)」に参加し、1台を金沢変電区の事業用車として活用しています。



使用電力量の推移

鉄道は、エネルギー効率に大変すぐれた交通機関ですが、電車の運転本数の増加や、エスカレーターやエレベーターを設置することに伴い、必要とする電力は年々増加しています。2015年度は、使用電力量が対前年度でマイナスとなり、省エネ車両導入の推進などにより、1両1kmあたりの消費電力量(運転原単位)も減少しました。



バスの取り組み

ハイブリッドバスの導入

京浜急行バスでは、窒素化合物などを多く排出する従来型のディーゼル車に比べ、排出ガスを削減し燃料消費を抑制できるハイブリッドバスを導入。国や東京都などがすすめる環境性能を飛躍的に向上させた次世代バスの開発・普及にも、積極的に取り組んでいます。



LEDヘッドライトの導入

京浜急行バスでは、LEDヘッドライトを導入することにより、消費電力の削減だけでなく、安全運転につながる視認性の向上にも寄与しています。現在取り付け可能な車両すべてにLEDヘッドライトを取り付けています。



エコドライブの推進

京浜急行バスでは、排出ガスの削減や燃料消費の抑制のため、始発停留所や待機場所などで停車中のエンジン停止に努めています。また、運行中の信号待ちや交通渋滞による停車の際に、エンジンが自動停止するアイドリングストップバスを1995年度から導入。このほかバスの速度やエンジン回転数を記録するデジタルタコグラフを搭載し、無駄な燃料消費のチェックと乗務員への運転指導を行っています。



電気バスを運行

川崎鶴見臨港バスでは2015年4月1日より、川崎病院線の運行便の一部に電気バスを導入しました。この車両の最大の特長は、動力源が電気であり地球にやさしく、走行音が静かであること。さらに車内に設置された液晶モニターで川崎市のインフォメーションの表示も可能です。



その他事業の取り組み

LED照明の導入

京急グループでは、グループ内の各商業施設・ホテル・事務所などにおいて、照明のLED化をすすめてきました。

特に、照明の稼働時間が長い商業施設においては、京急百貨店で6,300灯の照明器具をLED化しており、年間780トンのCO₂排出量削減に貢献しています。



大規模建物へのBEMSの導入

建物内の設備の稼働状況やエネルギー使用量を可視化し、効率よくコントロールするためのシステムBEMS (Building Energy Management System) を京急百貨店、京急第1ビル、京急第7ビルなどの大規模建物に導入し、エネルギー消費量の削減を図っています。



EV(電気自動車)の推進

■ 京急百貨店

外商用営業車としてEV「日産リーフ」3台を導入しています。2015年4月から2016年3月までの1年間で、同程度の大きさのガソリン車で走行した場合と比較して、約2.6トンのCO₂削減に貢献しました。



■ 京急グループ

自治体としてEVの普及促進を図っている横須賀市の施策に賛同し、横須賀市内にある京急グループ施設にEV用の充電器を設置しました。設置場所は、観音崎京急ホテル、同ホテル内の温浴施設SPASSO、京急ストアFHaB湘南池上店、京急ストアハイランド店の各駐車場で、営業時間内に無料でご利用いただけます。※将来的に有料化される場合もあります。



「ゆめおおおか」の節電対策推進

上大岡駅再開発事業で1997年に建設された再開発ビル「ゆめおおおか」の区分所有者で構成する「ゆめおおおか管理組合」では、既存設備への省エネ機能付加設備を導入するなど、効果的で経済的な省エネ対策を実施しました。これにより、事業最終年度(2012年度)には、2009年度比約31%減となる1,500トンのCO₂排出削減を達成しています。



廃棄物の削減・再利用・再資源化

京急グループでは、限りある資源を有効活用するため、ゴミの量をできるだけ減らし、可能な限り再利用または再資源化することで、循環型社会の実現を目指します。

鉄道の取り組み

リサイクル可能な車両部品

車両の新造にあたっては、廃車・解体時にリサイクルが可能であること、またそのための分別解体の容易さを考慮に入れた設計や材料選びをしています。最新車両である新1000形では車両部品にリサイクル可能素材を使用し、また、断熱材のノンアスベスト化などの取り組みを実施しています。



エコマークの付いた制服

鉄道会社の制服としては初めて「エコマーク認定」を2000年に取得しました。現在、採用している制服には「エコマーク」が付いています。素材の一部にペットボトルのリサイクル製品を使用しています。



バスの取り組み

資源の有効活用(水の再利用)

自動車車両の洗車後の水を回収・整水し、無駄に使用した分の補給水とあわせて再利用により水資源の有効活用を図る装置を、1987年から京浜急行バスグループの営業所に導入しています。



自動車車両洗浄装置

使用量…約370ℓ/1台
回収率…洗浄後の水の約80%



ペットボトルがシート生地に

2002年度からペットボトルのリサイクル生地をバスのシート地に採用しています。500mlのペットボトル約18本で、シート1脚分の生地が作れます。



その他事業の取り組み

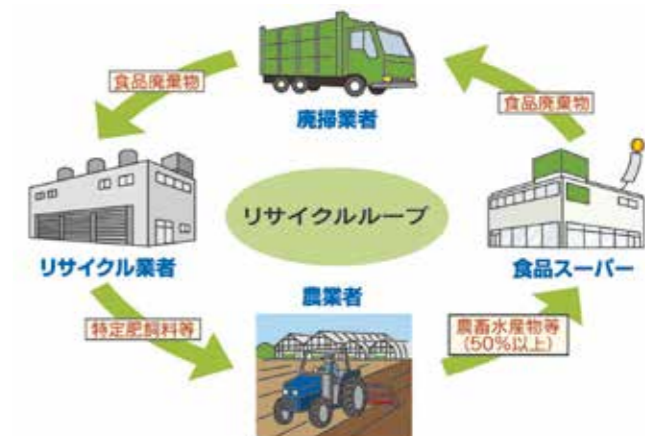
3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動の推進

京急百貨店、京急ストアの2社は、横浜市が策定した、ゴミの分別・リサイクルだけでなく、ゴミそのものを発生させないリデュースへの取り組みである「ヨコハマ3R夢(スリム)プラン」に賛同し、「横浜3R夢パートナー」に登録しています。さらに京急ストアは、神奈川県や横須賀市が進める、レジ袋削減に関する取り組みにも賛同しています。



食品廃棄物のリサイクル

京急ストアでは店舗において排出された食品廃棄物を肥料や飼料に生まれ変わらせる食品廃棄物リサイクルを、現在9店舗で実施しています。今後は、下図のようなリサイクルループも視野に入れ、リサイクルの活性化に取り組んでいきます。



缶・ペットボトルの減容処理

京急EXインや京急ウィズでは、専用の機械を用いて缶やペットボトルの減容処理を行っています。ゴミの体積を減らすことで、効果的なゴミ収集を図っています。



公共交通の利用促進

鉄道やバスは、エネルギー使用量やCO₂排出量が少ない、環境にやさしい乗り物です。バリアフリーのさらなる充実、きめ細やかな運行情報の提供などのほか、お客さまの多様なニーズに配慮した割引運賃・割引乗車券を提供し、公共交通手段の魅力を高めていきます。

鉄道の利用促進

バリアフリーの推進

■ 設備の充実

すべてのお客さまがより快適に安心してご利用いただけるよう設備の改修をすすめています。

2015年度は、穴守稲荷駅で改札内外コンコースおよび下りホームの床面改修工事を行いました。また、日ノ出町駅の改築工事をすすめるとともに逸見駅の駅舎・トイレ改築、横須賀中央駅東口駅前Yデッキ屋根改修、堀ノ内駅改築工事に伴うトイレの改築工事を行いました。



■ サービス介助士の資格取得を推進

お年寄りやおからだの不自由なお客さまが、安心して駅をご利用いただけるよう、駅係員には「サービス介助士」の資格取得を推進しています。また、お客さまからの介助要請や急病人に対する的確に対応できるよう「普通救命講習」の受講を推進しています。さらに、お客さまが有資格者をひと目で識別できるよう、バッジによる資格取得表示も行っていきます。



わかりやすい運行情報の提供

列車の運行情報をできるだけリアルタイムにお客さまへお知らせいたします。各駅では、ホームまたは改札口付近に列車発車案内表示器または運行情報表示器を設置しています。

また、京急電鉄のホームページ上でも電車運行情報を掲載しているほか、あらかじめ登録いただいたお客さまの携帯電話へは「電車運行情報」配信サービス、またTwitterでの京急線運行情報の配信などを行っています。



スマートフォンでポケット時刻表をダウンロード

駅構内に設置した電車時刻表にQRバーコードを掲出し、ポケット時刻表がダウンロードいただけるサービスを行っています。



企画乗車券の販売と利用時の混雑状況の情報提供（「みさきまぐるきっぷ」対象店舗）

- 各駅からの乗車券に、指定区間のフリー乗車券や店舗・施設の利用券、優待特典などをセットにしたおトクなきっぷを販売しています。また、羽田空港アクセスに便利な乗車券等も各種ご用意しており、羽田をご利用のお客さまにご好評いただいています。
- 「みさきまぐるきっぷ」対象の食事提供店舗の混雑状況が、WEBから簡単にチェックできるようになりました。



モーニング・ウィング号運行の開始

2015年12月のダイヤ改正にあわせ、平日の「モーニング・ウィング号」の運行を開始しました。モーニング・ウィング号は、三浦海岸駅・横須賀中央駅・金沢文庫駅・上大岡駅を乗車駅とし、品川駅までノンストップで運行する「確実に座ることが出来る」京急初の上り着席保証列車のことで、快適な通勤、通学を提供しています。



駅務競技会開催

駅係員のスキルアップを目的として、助役・営業主任・営業係といったそれぞれの階層別に接客対応や営業知識に関する研修を毎年計画的に行っています。

毎年8月には、「駅業務競技会」を開催しており、旅客営業規則などから出題される筆記試験のほか、各駅代表による接客に関する実技試験を行い、モチベーションアップにつなげています。



バスの利用促進

バリアフリーの推進

高齢者やお子さま、障がいのある方も含めすべてのお客さまがより快適に安心して利用できるよう、ノンステップバスの導入を中心にバリアフリー化を推進しています。



バスロケーションシステム

携帯電話・スマートフォン・パソコンでバスの所在地が確認できるバスロケーションシステムは、すでに導入済みの東京地区に加え、2015年3月から神奈川地区の一部路線で導入し、2016年度には一般路線バス全線での提供を予定しています。



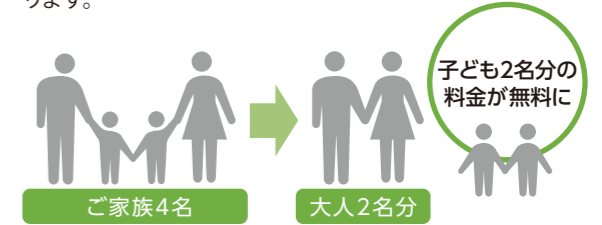
各種割引運賃の実施

自家用車ではなく環境に配慮したバスの利用を促進する以下のサービスなどにより、排出ガス削減につなげます。

- バス利用特典サービス（バステ）…ICカード乗車券によるバスのご利用額に応じて、バスの運賃の支払いに使用することができる特典バスチケットを付与



- 環境定期券割引…土・日・祝日に一般路線を利用する際、通勤定期券があれば、同居の家族全員が1名100円（小児50円）で区間に限らず乗車可能
- ファミリー運賃割引（京浜急行バス）…学校の春・夏・冬休みとゴールデンウィークの期間に、通勤定期券以外で一般路線を利用すれば、大人1名につき小児1名の運賃が無料になります。



環境データ・環境会計

環境負荷データ

鉄道をはじめとする各事業活動を行うには、エネルギーや資源（Input）が必要であり、また、その事業活動からは二酸化炭素（CO₂）などの地球温暖化物質や廃棄物（Output）が発生します。京急電鉄では、事業活動における環境負荷を定量的に把握し、その低減に努めています。

京急電鉄マテリアルフロー総括表

| INPUT | | OUTPUT | |
|--------|-----------------------|---------------------|---------|
| 水道 | 379,066m ³ | CO ₂ 排出量 | 92,717t |
| 電力 | 245,164,002kWh | 電力 | 91,937t |
| 都市ガス | 131,126m ³ | 都市ガス | 292t |
| プロパンガス | 19,543m ³ | プロパンガス | 117t |
| 灯油 | 18,564t | 灯油 | 46t |
| 軽油 | 69,153t | 軽油 | 178t |
| ガソリン | 63,447t | ガソリン | 147t |
| | | 廃棄物排出量 | 36,051t |
| | | 廃棄物リサイクル量 | 22,327t |
| | | 廃棄物リサイクル率 | 61.9% |

※参考：環境省「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧（2011年3月改正）

環境会計

環境会計は、事業活動における環境保全のためのコストとその活動により得られた効果を認識し、可能な限り定量的に測定し伝達する仕組みです。京急電鉄では2008年度より環境会計を導入しています。

| 分類 | | 設備投資 | 費用 |
|-----------|-----------|----------------------------------|------------------|
| 事業エリア内コスト | 公害防止コスト | 大気汚染防止、水質汚濁防止、土壌汚染防止、騒音・振動防止、その他 | 337,790 751,840 |
| | 地球環境保全コスト | 温暖化防止、オゾン層保全 | 1,504,146 23,290 |
| | 資源循環コスト | 水、一般廃棄物処理費、廃棄物処理費 | 0 4,638,670 |
| 計 | | 1,841,936 | 5,413,800 |
| 管理活動コスト | 管理活動コスト | 事業所緑化、環境情報開示等 | — 19,033 |
| | 社会活動コスト | 社会活動への参加、寄付等 | — 1,883 |
| 計 | | — | 20,916 |
| 合計 | | 1,841,936 | 5,434,716 |

京急電鉄環境会計基本事項

- ・集計範囲は京急電鉄単体です。
- ・対象期間は2015年4月1日から2016年3月31日です。
- ・「民鉄事業環境会計ガイドライン」2008年版を参考に集計しています。

- ・集計数値は千円未満は四捨五入にて計上しています。
- ・環境会計は、確実に把握できる取り組みについてのみ計上しました。
- ・減価償却費は費用額に含んでいません。

自然との共生・環境保全

京急グループの事業エリアである三浦半島は豊かな自然に囲まれており、多様な生物の宝庫です。

私たちは、この豊かな自然を次の世代に引き継いでいくため、保全活動に取り組むとともに、より多くの皆さまに知っていただくための広報活動を行っています。

京急油壺マリンパークの活動

京急グループ唯一の水族館である京急油壺マリンパークでは、1970年に博物館相当施設に指定を受けて以来、社会教育施設として紹介展示に努めています。

絶滅危惧種の保存

京急油壺マリンパークでは、絶滅危惧種の繁殖活動を地域や学校とともにを行っています。今日までに、神奈川県産の絶滅危惧種として指定されているメダカ、ニホンアカガエル、イモリ、ホトケドジョウのほか、哺乳動物では、ホンシュウモモンガの繁殖保護に成功しました。これからも長年培った飼育技術を活かし、希少な動物たちの繁殖保護に努力していきます。



絶滅危惧種のDNA調査

神奈川県に生息する絶滅危惧種のDNAについて東京大学と共同研究を実施しています。DNA鑑定を行うことで地域固有種を把握し、絶滅危惧種の保護に役立てます。

三浦メダカの里親制度

マリンパーク職員が地元の小学校へ出向き、固有種である三浦メダカの飼育方法をアドバイスしながら、地元に住む希少な生物の繁殖と種の保存について考える「三浦メダカの里親制度」を行っています。2015年度は、三浦市および横須賀市内の小中学校20校にご参加いただきました。こうした取り組みなどを通じ、京急油壺マリンパークは三浦半島周辺の絶滅危惧種の保護・繁殖の拠点を担い、地域の活性化と自然保護に貢献していきます。



森林の保全

かけがえのない自然「小網代の森」

三浦市の中西部に広がる「小網代の森」は、川の最上流部から河口の干潟まで約1.2kmの流域が手つかずのまま残る首都圏で唯一の完結した森です。ここには谷・湿地・干潟などが点在し、その広さは約70ha、東京ドーム約15個分に相当します。この豊かな自然の中には森のシンボル「アカテガニ」をはじめ貴重な生物が2,000種以上も生息しています。



三崎口駅に三浦の魅力発信基地がオープン!

三崎口駅構内改札外にオープンした「三崎口駅前観光案内所」は、三浦市観光協会が運営し、お客さまに三浦を満喫してもらえるよう情報を発信する施設です。

三浦市には、「小網代の森」をはじめ、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで2つ星として紹介された景勝地「城ヶ島」など自然が主役のスポットが多く、首都圏近郊の主要観光地として親しまれています。



「“楽”ecoプロジェクト」を実施

京急百貨店では、お中元・お歳暮ギフトのご注文1個ごとの販売からお届けまでに発生するCO₂排出量に、横浜市が所有する水源林支援を行い認定された、整備を行った森林によるCO₂吸収量をあてるカーボンオフセット型の「“楽”ecoギフト」を販売しています。2015年度は、約6.6トンのCO₂吸収量を充当しました。また、京急ストアでは、「“楽”eco活動」の取り組みとして2010年10月から植林による環境支援活動を行っています。お客さまのレジ袋辞退1回につき京急ポイントカードの1ポイント相当を京急ストアが負担し、NPO法人環境リレーションズ研究所が運営する森林再生プロジェクトに寄付しています。現在までの累計で約3,000本の木を植えることができました(2016年6月末時点での植林先は北海道雨竜郡)。



啓発活動

あきたecoらいすの田植え

第7回「京急あきたフェア2015-あきたecoらいす応援プロジェクト-」のキックオフイベントとして、田植えを行いました。おうち料理研究家のみきママと、「みきママと行く親子で田植え体験ツアー」の一般参加者、京急グループ社員、秋田北鷹高校生徒、JA全農あきたの皆さん約50名が参加し、「あきたecoらいす」の早苗をきれいに植え込みました。



京急ファミリー鉄道フェスタでの環境PR

2016年5月に開催された「京急ファミリー鉄道フェスタ2016」では、京急環境活動紹介コーナーを出展しました。このコーナーでは、京急グループの環境活動をパネルやジオラマを使って紹介し、京急グループの環境活動に対する理解を深めていただきました。

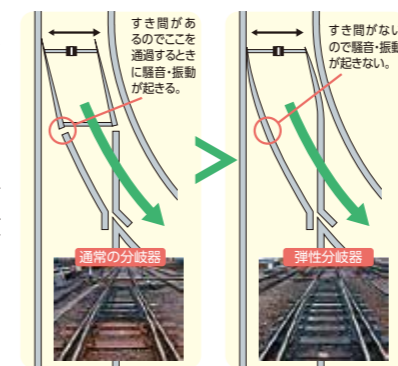


その他環境への取り組み

鉄道の騒音と振動対策

弾性分岐器の採用

線路の分岐に用いられる分岐器(ポイント)は、可動するレールと可動しないレールとの間に継ぎ目が生じ、それが振動・騒音の原因になっていました。弾性分岐器はレールとして使用している鉄の“たわみ”によって可動するレールを動かす構造で、振動・騒音の軽減に大きな効果があります。2014年度までに総数346台中、145台が弾性分岐器化されています。



弾性構造踏切の設置

踏切内のアスファルト舗装を鋼管ゴム素材に換えることで通過時の騒音を軽減します。また軌道補修作業を行っても繰り返し使用できることから環境面でもすぐれています。



京急サイクルトレインの運行

三浦半島では、三浦半島サミットにおいて「自転車半島宣言」が出されるなど、近年サイクリストの誘致を積極的に行っています。京急電鉄では自転車を折りたたまずに電車に直接積み込める「京急サイクルトレイン」を2016年5月に運行し、三浦半島の魅力を知っていただく取り組みを行いました。



観音崎ビーチクリーン活動

京急グループ推進協議会がCSR活動の一環として、積極的にボランティア活動を進めていこう!という取り組みの第一弾として、ボランティア研修およびビーチクリーンを実施しました。

研修では、「京急グループ社員としてできるボランティア活動について考える」をテーマに、京急沿線で取り組むボランティアについて活発な意見交換を行いました。



保線作業における騒音対策

線路の道床をつき固めるのに使用するマルチブル・タイタンパーに防音装置を取り付けたのをはじめ、道床保守作業自体の減少を図るため、コンクリート道床化を積極的にすすめています。その他、不均衡に摩耗したレールを定期的に削正するなど、騒音・振動の軽減に努めています。



ロングレールの採用

レール1本あたりの長さが200m以上もあるロングレールは、線路の継ぎ目が少ないことから走行音や振動を低減することができます。2015年度のロングレール化率は下記の通りです。

ロングレール化率

| 全延長 | 可能延長 | 敷設延長 | 可能延長に対するロング化率 |
|----------|----------|----------|---------------|
| 185,749m | 181,030m | 172,947m | 95.5% |

環境法令への対応

京急グループ各社では、国や沿線自治体が定める環境関連法令に則って報告書や計画書を提出、また、定められた削減義務や目標を達成するため、計画的な省エネルギー施策の実施に取り組んでいます。

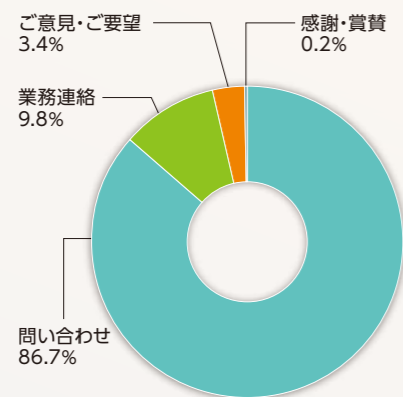
社会のために

京急グループは、お客さまや株主の皆さまをはじめとし、地域の皆さま、従業員、さらには訪日外国人など、さまざまなステークホルダーに対し、情報開示を適切に行い、積極的なコミュニケーションを図ることで、社会的信頼性の向上を目指してまいります。

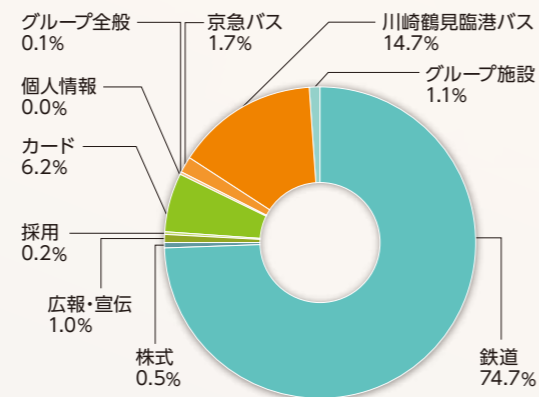
京急ご案内センター

京急グループでは、京急をより身近に感じていただけるよう、京急ご案内センターを開設しています。京急線の時刻や運賃、お忘れ物のご案内のほか、京急グループのサービスや施設に関するお問い合わせやご意見・ご要望を受け付けています。2015年度の総受付件数は、185,069件でした。

■ 受付内容の内訳 - 2015年度 -



■ 受付内容の分野別内訳 - 2015年度 -



お客さまとのコミュニケーション

京急グループでは、顧客満足度の充実に目指し、お客さまのご意見・ご要望を幅広く取り入れさせていただき、今後のサービスや商品の品質向上に役立てていきます。

お客さまの声に基づく改善事例

電車・バスをはじめとした京急グループのサービスを、より便利に、より快適にご利用いただけるよう、京急グループでは、お客さまの声をサービス改善に活かす取り組みを行っています。

京急ご案内センターに、毎日寄せられるお客さまのご意見・ご要望は、データベース化され、分析をしたうえで、担当部署・各グループ会社へ報告されます。京急ご案内センターと担当部署・各グループ会社が連携し、改善を目指すことで、お客さまにより良いサービスを提供できるように努めています。

事例1 みさきまぐろきっぷ

お客さまの声 ● 食事をしようと思ったが、混雑していて食べられなかった。事前に混雑状況が分ければ、ほかの店に行けたのに…

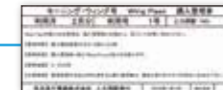
取り組み まぐろきっぷ対象店舗の混雑状況が確認できるシステムを開発し、品川駅・三浦海岸駅・三崎口駅のほか、スマートフォンやパソコンで確認できるようにしました。



事例2 Wing Ticket・Wing Pass

お客さまの声 ● 毎月1日の10時に購入することができないので、利用時間に合わせて早い時間から発売してほしい。
● 発売開始時刻に行ったら整理券の配布で完売と言われた。整理券を配布することをきちんと告知してほしい。

取り組み 整理券配布について統一したルールを決め、HP上で公開しました。
購入整理券の配布
① 配布場所 上大岡駅・金沢文庫駅・横須賀中央駅・三浦海岸駅
② 配布時間 毎月1日6:00～
③ 整理券の有効期日 配布当日の10:00～22:00



お客さまの声 ● 前もってWing Ticketを購入するために改札内に入らなくてはならないが、入場券を購入しなくてはならないことに納得できない。

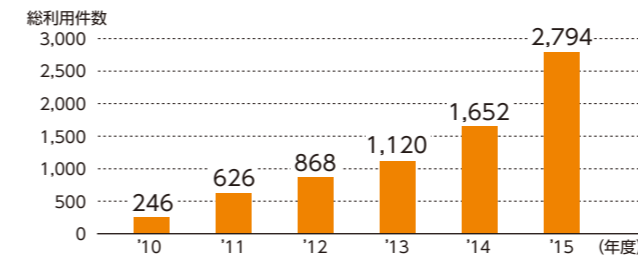
取り組み 井土ヶ谷駅以南の駅では購入票を配布、南太田以北の駅では発売駅までの往復乗車券の払い戻しを行うことで、入場券の購入をせずに改札内に入れることになりました。



京急通訳サービス

羽田空港の国際化に伴い、2010年10月から、京急線全72駅(泉岳寺駅を除く)および京急グループ各社で利用可能な「京急通訳サービス」を行っています。英語・中国語・韓国語に対応する専門オペレーターが、3者間通話により、お客さまとの会話を電話でサポートしています。複雑で多岐にわたる質問にも、京急通訳サービスを利用することで、迅速かつ正確な対応が可能になり、利用件数も年々増加しています。海外からのお客さまが、より安心して京急グループの交通機関や施設を利用できるようなサービスを提供するとともに、お客さまのニーズを京急グループのサービス向上に反映できるよう、取り組みの検証を進めてまいります。

■ 京急通訳サービス利用件数の推移



京急ご案内センター
TEL.03-5789-8686 TEL.045-441-0999
営業時間※/平日9:00～19:00 土・日・祝日9:00～17:00 ※2016年9月16日から
※営業時間は、変更になる場合がございます。

■ 京急通訳サービス利用事例

- ▶ 対応部署: 京急川崎駅 **オペレーターによる通訳**
- 英語** 日本円の現金を持っておらず、乗車券の支払いを米ドルかクレジット決済にしたい。
日本語 支払いは日本円の現金のみ承っている。
駅係員
- 英語** 以前JR線を利用した際、クレジット決済が可能であったので、JR線で羽田空港まで行く方法を教えて欲しい。
日本語 (経路を説明……)
駅係員
- 英語** …やはりATMで日本円の現金を用意する。

地域のために

人々の生活に密着したさまざまな事業を行っている京急グループだからこそ、地域に根ざした企業集団として、住民の皆さまや自治体と連携した地域貢献に努めています。

事業所周辺での美化活動

京急グループでは、駅や事業所周辺で日常的な清掃活動を実施しているほか、沿線の自治体や地元団体などが実施している地域美化活動にも積極的に参加し、コミュニケーションを図りながら、きれいなまちづくりに取り組んでいます。



駅長が小児病棟を訪問

京急電鉄では、平和島、京急蒲田および羽田空港国内線ターミナル駅の3駅長が2016年2月に東京都大田区の東邦大学医療センター大森病院小児病棟を訪問しました。当日はクイズ大会やペーパークラフトの制作、制服を着用しての記念撮影などを実施し、病氣と闘う子どもたちと和やかに楽しいひと時を過ごしました。



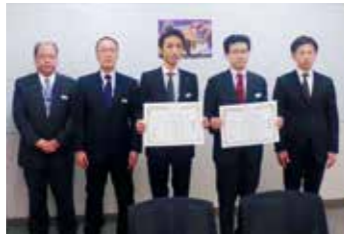
補助犬受入セミナーに参加

京急電鉄および京浜急行バスは、羽田空港で行われた日本身体障害者補助犬学会が主催する「公共交通機関関係者向け補助犬受入セミナー」に参加しました。これは、「補助犬とともに安全で快適な空の旅を楽しんでいただく」ことを目的として開かれ、航空会社や空港関係者とともに参加しました。



振り込め詐欺などの抑止に貢献

京急電鉄および京浜急行バスは、神奈川県警察本部が推進する犯罪抑止対策に協力したとして同本部から感謝状を授与されました。これは、振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺の主な手口や被害を避けるための注意事項をポスター等で掲出し、積極的に啓発活動を行ったことが評価されました。



よこすか京急沿線ウォークの実施

京急電鉄と横須賀市は、横須賀・三浦半島の魅力を発信し、集客・旅客誘致を促進するため「よこすか京急沿線ウォーク」を開催しています。このウォークは駅をスタートし、三浦半島の見どころを巡りながらゴールまでを楽しむイベントで年間5回開催しています。



三浦海岸河津桜の時期に合わせた旅客誘致施策

三浦海岸駅の周辺では、約1,000本の河津桜が咲く「三浦海岸桜まつり」の開催期間にあわせてキャンペーンを開催しました。2015年度は駅前のライトアップに加え、期間限定で線路沿いのライトアップも実施しました。



よこはまエンジョイウォーク2015の実施

京急電鉄は、横浜市とのタイアップによる「介護の日&よこはま健康スタイルフォーラム」を2015年11月に開催しました。また、「よこはまウォーキングポイント事業」の1周年を記念し、京急沿線を利用した「よこはまエンジョイウォーク2015」を実施し、横浜市とともに介護、介護予防や健康づくりなどの情報を魅力的に発信する取り組みを行いました。



京急すまいるステーションのオープン

京急不動産では、2015年8月から「住まいと暮らし」がより良くなるための情報を備え、豊富な知識でバックアップする地域密着型の情報&相談ステーション「京急すまいるステーション」を金沢文庫・京急蒲田・京急川崎の3店舗で展開しています。幅広いバックボーンを活かし、売買・賃貸・リフォームから資産活用までお気軽にご相談いただけます。



子どもたちの未来のために

次世代を担う子どもたちに、京急グループの魅力や仕事を伝えるとともに、夢や元気をあたえられるような企画を積極的に実施していきます。

京急ファミリー鉄道フェスタの実施

毎年5月に、鉄道の車両工場である京急ファインテック久里浜事業所において、「京急ファミリー鉄道フェスタ」を開催しています。普段は公開していない車両工場を会場とすることで、一般のお客さまに当社の鉄道事業や、安全・安心への取り組みをご理解いただく機会になっています。当日は、電車の運転台での記念撮影や、信号機の操作体験などさまざまなイベントを実施し、多数のお客さままでにぎわいました。



けいきゅうキッズチャレンジ

けいきゅうキッズチャレンジは、美しい自然や豊かな産業など多彩な魅力にあふれる京急沿線をフィールドに、「普段は出来ない本物体験」を通じてお子さまの成長につなげるとともに、価値ある京急沿線の魅力を知ってもらうことをテーマに開催しています。



子ども電車あんぜん・あんしん教室を開催

京急ステーションサービスでは、2015年3月に営業センターにおいて京急キッズランド保育園の5歳児の園児を対象に「子ども電車あんぜん・あんしん教室」を開催しました。園児たちは、ビデオ視聴ときっぷ購入を体験し、電車に乗る時のマナーや安全のために守るべきマナーを楽しみながら学びました。



幼稚園児が職業体験

京急幼稚園では、2015年8月に京急百貨店において「わくわく職業体験」を実施しました。これは、2014年度から行われているもので、女兒は百貨店の制服に男児はオリジナルのネクタイを身に付け、開店の挨拶ののち「レジ打ち」「チラシ配り」「洋服おたたみ」の3つの職業体験にチャレンジしました。



京急観光×神田外語学院 外国人向けの旅行業務実習を開始

京急観光と神田外語学院は、2015年5月から学生による「旅行業務の実習」を開始しました。社会人としての基礎力や旅行業務に関する専門知識・実務経験の習得、グローバル人材の育成を目的として行われ、産学が連携して人材を育成していくことを目指します。



駅長が地元の社会福祉施設を訪問

2016年4月に横須賀中央駅長と三浦海岸駅長が横須賀市の社会福祉施設「希望のひかり」を訪問しました。当日は「京急電車運転シュミレーター大会」、けいきゅんとの記念撮影などを行い、子どもたちと思い出に残る楽しいひと時を過ごしました。



認可保育所の運営

京急サービスでは、認可保育所の運営を進めています。現在沿線に7か所運営しており、地域の待機児童減少に貢献するとともに、駅チカという利便性にすぐれた立地で運営することにより、保護者の皆さまにご好評をいただいています。



障がい者向けの保護者講演会

京急ウイズでは、2015年6月に横須賀市立馬堀小学校において、障がいのあるお子さまの保護者を対象に、講演を行いました。普段の子育ての忙しさから情報収集が難しい保護者の方々は、熱心に耳を傾け、講演後には多くの質問が寄せられました。



株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

京急グループでは、適時・適切な情報開示に努めるとともに、積極的なIR活動を通じて、透明性の高い経営を実現していきます。

情報開示

京急グループでは、法令などにに基づき、重要情報を適時・適切に開示しています。また、ウェブサイトのIRページにおいて、鉄道月次営業成績のほか、決算短信や有価証券報告書、ファクトブック、株主総会や投資家向け会社説明会で用いた資料や動画を公開するなど、株主・投資家への情報開示に努めています。

株主総会

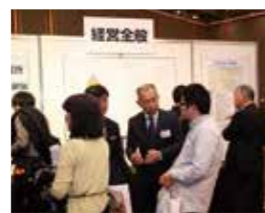
毎年800名ほどの株主の皆さまにご出席いただき、1年間の事業内容を、映像やナレーションを用いてわかりやすく報告しています。また、質疑応答を通し、開かれた株主総会を実践しています。さらに、議決権行使の円滑化を図るため、招集通知を発送に先立ちウェブ上で早期開示しています。



定時株主総会

投資家向け会社説明会

京急グループの経営方針や将来展望、株式や株主優待制度などを、より多くの皆さまにご理解いただき、投資の参考としていただくため、機関投資家・個人投資家向け会社説明会を定期的に開催しています。



個人投資家向け会社説明会

従業員のために

京急グループでは、多様な人材がいきいきと仕事に取り組み、心身ともに健康で安全に働ける職場づくりを推進しています。

女性従業員の活躍

京急電鉄では、2015年3月に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づき一般事業主行動計画を策定しました。これは、女性の活躍を推進するため、自社における女性の活躍状況等の現状を分析したうえで課題の対応策を定めたもので、総合職の採用に占める女性の割合を毎年30%以上にするとともに2020年度末までに女性管理職層の人数を2015年度末の30%増とすることをめざします。また、女性のキャリア形成を支援するための仕組みを整備するとともにあらゆる職場において性別を問わず、すべての社員がより働きやすい労働環境を整備していきます。



IRイベントへの参加

個人投資家の皆さまに京急グループの事業や当社の株式の魅力などをご理解いただき、投資の参考にしていただくため、首都圏だけでなく、全国各地でIRイベントや説明会に参加し、積極的な情報の提供に努めています。



日経IRフェア

株主向け施設見学会

株主の皆さまに京急グループの事業について理解を深めていただくため、定期的に株主向けの施設見学会を開催しています。2015年度は「観音崎京急ホテル三浦半島リゾートの魅力体感ツアー」「鉄道の安全を支える新町検車区見学ツアー」「世界とつながる駅の魅力を知る 羽田空港国際線ターミナル見学ツアー」「安全運行の秘密に迫る 保守作業の現場見学ツアー」の4回を開催しました。



観音崎京急ホテル 三浦半島リゾートの魅力体感ツアー



世界とつながる駅の魅力を知る 羽田空港国際線ターミナル見学ツアー

高齢者雇用

京急電鉄では、2001年から定年退職者の再雇用制度を導入し、シニアスタッフとして定年を迎えた社員を再雇用しています。本人と面談をし、就業希望先などのヒアリングを実施し、年金の満額受給開始までの間、経済的に安定した生活が送れるよう再雇用制度の拡充に力を入れています。

障がい者雇用

京急グループでは「障がい者の雇用の促進等に関する法律」に基づき特例子会社および関係会社の特例認定を受け、障がい者の雇用促進と就業機会の拡大をすすめています。

安全で健全な職場環境の整備

京急グループでは、全国労働安全週間にあわせて「京急グループ安全大会」を開催し、社員の安全・衛生教育の意識向上に努めています。また、開催日にあわせ無事故・無災害団体の表彰を行い、意識向上を行っています。



労働災害防止における標語募集での受賞

2015年9月に横浜市中区で行われた「平成27年度労働安全衛生大会」において、京急サービス社員2名の作品が優秀作品に選ばれました。これは、「労働災害防止における標語」として神奈川県警備業協会が募集し、多くの作品の中から選ばれたものです。



海外とのコミュニケーション

京急グループでは、海外からのお客さまの利便性向上をめざした様々な取り組みを行っています。

外国語表記導入の推進

京急電鉄では、全駅の自動券売機が4か国語に対応、また「駅ナンバリング」を導入しているほか、各駅の案内サインについても順次多言語対応のものに更新を行っています。



タイ人おもてなしキャンペーン

京急電鉄では、2016年4月から6月の間「タイ人おもてなしキャンペーン」を実施しました。これはタイ王国のソクラーン(タイの旧正月)にあわせ、羽田空港国際線ターミナル駅の京急ツーリストインフォメーションセンターで同国のパスポートを提示されたタイ人のお客さまを対象に行ったもので、訪日外国人に人気のお菓子と京急グループ施設特典が受けられるクーポンをプレゼントしました。



海外向けホームページの配信

京急グループでは、Webサイト上で、英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語による「羽田空港アクセスガイド」を配信し、海外から羽田空港を訪れる旅行者向けに空港からの電車・バス・タクシーの交通案内やお得なきっぷ、東京・横浜の見どころなどを空港アクセスとあわせて紹介しています。



羽田空港国際線ターミナル駅に「ウイングエアポート羽田」オープン

2015年10月、羽田国際化5周年を記念して、駅ナカショッピングゾーンを「ウイングエアポート羽田」にリニューアルしました。従来からの日本人旅客に加え、「ラオックス」、「マツモトキヨシ」等、免税サービスに強みのある店舗を誘致しました。



2016年4月にはラーメンフードコート「品達 羽田」もオープンし、急増する訪日旅客からも支持を受けています。

音声翻訳で訪日外国人をご案内

■「VoiceTra」搭載の駅案内用タブレットを全駅に導入
京急電鉄では、音声アプリ「Voice Tra」搭載の駅案内用タブレット端末に列車運行状況の表示機能を搭載し、2016年2月から泉岳寺駅を除く全駅に導入しました。これは、訪日された外国人のお客さまからの目的地への行き方やおすすめ観光スポットに関するご質問などを29言語で翻訳し案内することができます。

また、列車運行状況を搭載することにより、タイムリーな列車運行状況をホームなどでも駅係員が把握できることで、お客さまに正確な情報をより迅速に提供することが可能になりました。



■「鉄道通訳」の共同研究開始

京急電鉄は、国立研究開発法人情報通信研究機構・株式会社ブリックスと共同で多言語音声翻訳サービスおよび電話通訳サービスの共同研究を行っています。これは、駅改札窓口等において、駅係員が外国人のお客さまに案内をする場面を想定し、比較的簡単な対応は多言語音声アプリケーション「Voice Tra」を、通訳者による丁寧な対応が必要な場合は通訳者に電話接続することで円滑なコミュニケーションの実現をめざしています。



コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスの基本的な考え方

京急グループは、法令を順守し、経営の透明性・健全性を確保したうえで、経営計画の達成に向けて、適法かつ適正に意思決定と職務執行を行うことにより、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指しています。

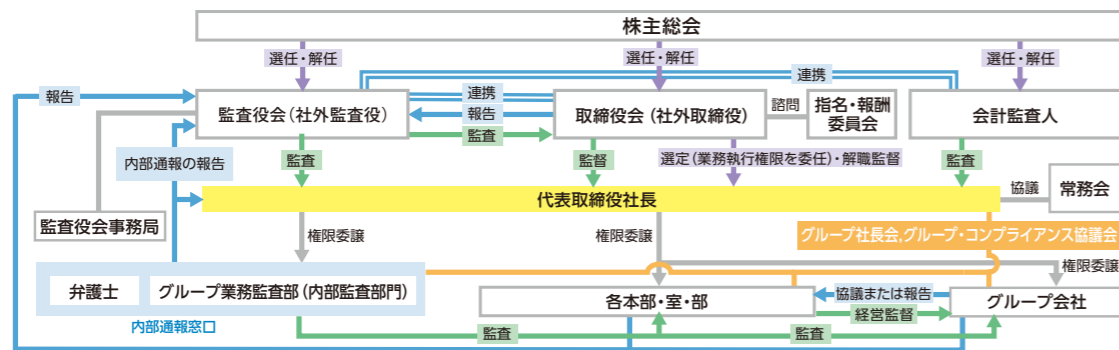
京急電鉄は、現状において、適時かつ適切に取締役会などの運営を行い、迅速かつ適切な意思決定ができていますと、従前どおり監査役制度を採用しています。取締役会は、社外取締役3名を含む16名で構成され、法令・定款で定められた事項や経営上の重要事項の決議および報告ならびに職務執行の監督を行っています。また、常勤取締役および常勤監査役で構成する常務会は、取締役会に付議する事項を協議するとともに、詳細な業務に関する事項を審議することで、取締役会から代表取締役社長への権限委譲を進めています。さらに、監査役会は、社外監査役3名を含む4名で構成され、各監査役の監査状況の報告および監査意見の形成を行っています。各監査役は、経営状況の監査や取締役の職務執行の適法性などの監査を行うほか、取締役会などの重要な会議に出席し、必要に応じて意見陳述を行

ています。このほか、代表取締役と監査役との間で職務執行や監査に関して定期的に会合を行い、監査上の重要課題などについて意見交換を行っています。なお、取締役の事業年度の経営責任を明確にするとともに、経営環境の変化に迅速に対応した経営体制を構築することができるようにするため、取締役の任期は1年としています。

京急電鉄では、公共交通機関を中心に事業を行っている社会的責任を踏まえ、短期的な業績に限らず、事業継続の大前提となるサービス・商品の安全確保など中長期にわたる企業価値向上を実現するため、取締役会においては、京急グループの事業や戦略に精通する取締役を中心とした体制をとっています。また、社外役員が独立した立場から経営に参画することで、さらに透明性、客観性の高いコーポレートガバナンス体制を推進できることから、上記に記載した体制を採用しています。

グループ全体においては、グループ会社社長が出席するグループ社長会を定期的に開催し、グループ全体における経営方針の徹底と経営情報の共有化を図っています。

京急グループ コーポレートガバナンス体制図



監査体制

内部監査は、社長直轄の組織であるグループ業務監査部が、京急グループの業務全体にわたる内部統制体制についての監査を行うとともに、関係部署との連携強化を図っています。監査役監査は、専任の組織が、監査役の職務を補助しています。会計監査は、

京急電鉄と監査契約を締結している新日本有限責任監査法人が、定期的な監査等により会計処理の正確性と透明性の強化に努めています。京急電鉄は、内部監査、監査役監査、会計監査間で相互に連携をとる体制を整備しています。

危機管理体制

リスクマネジメントの基本的な考え方

公共交通機関を中心に事業を行う京急グループの社会的責任を踏まえ、サービス・商品の安全・安心を確保するため、京急グループ危機管理規程に基づき、平時から安全対策に積極的に取り組むとともに、万一の事故や災害などの発生に備え、各種対応方法を整備しています。また、危機発生時に、グループ全体の情報を集約・共有することにより、危機のすみやかな収束と再発防止を図っています。

さらに、グループ全体のリスク情報を管理するため、各部門は当社事業に係るリスク情報を把握するとともに、職制および業務分掌規定に基づき、所管する各グループ会社のリスク情報を把握し、損失の最小化を図るための対策を講じています。

このほかグループ業務監査部は、各部門および各グループ会社のリスク管理体制についての監査を行っています。

各部門が把握するリスク情報については、グループ全体のリスク情報として集約し、グループ・コンプライアンス協議会において情報の共有化を図っています。

危機管理委員会

公共交通機関を中心に事業を行う京急グループの社会的な責任を踏まえ、サービス・商品の安全・安心を確保するため、グループ全体の危機に対応する事項を検討・立案する「危機管理委員会」を設置し、平時から安全対策などに積極的に取り組んでいます。また、京急電鉄の各本部長、部長およびグループ会社社長は「危機管理統括責任者」または「危機管理責任者」として、危機管理委員会の方針および指示に従い、自部署・自社における対応策の立案・実行・見直しを行っています。

危機対策総本部

重大な事件、事故、不祥事、自然災害、疫病、テロの発生など、グループ全体での対応が必要な場合には、京急電鉄の社長もしくは危機管理委員会委員長を本部長とした「危機対策総本部」を設置し、迅速かつ正確な事実確認と情報公開を行うとともに、ステークホルダーの損害を最小限にとどめるための具体案を立案し、実行します。

コンプライアンス

コンプライアンスの基本的な考え方

京急グループは、法令や社会規範に則り、京急グループを取り巻くすべての皆さまからの信頼に応え、企業市民として期待される社会的責任を果たすために、「京急グループ・コンプライアンス指針」、「京急グループ・役員および従業員行動基準」を定めています。

京急グループ・コンプライアンス指針

- 1 お客さまに対して**
お客さまの豊かな生活のために、安全で、満足を得られるサービス・商品の提供に努めます。
- 2 株主・投資家に対して**
投資に対する期待に応えるために、長期的・安定的な企業価値の増大を目指した事業活動と、適時・適切な会社情報の開示に努めます。
- 3 地域・社会・環境に対して**
よりよい社会の形成に貢献するために、地域社会との協調・連携に努めるとともに、地球環境を守るために、環境への負荷軽減に努めます。
- 4 取引先に対して**
相互の繁栄のために、合理的な商慣習に則った、公正・透明な取引に努めます。
- 5 従業員に対して**
従業員が安心して意欲的に働くことができるために、個人の尊重と、良好な職場環境の維持・向上に努めます。

京急グループ・役員および従業員行動基準

- 1 お客さまに対して**
 - (1) 私たちは、常にお客さまの安全を最優先に考え、サービスや商品を提供します。
 - (2) 私たちは、お客さまのニーズを把握するとともに、お客さまの声を活かし、満足度の高いサービスや商品の提供に努めます。
- 2 株主・投資家に対して**
 - (1) 私たちは、株主・投資家などから正しい評価を得られるよう、適時・適切な企業情報の開示に努めます。
 - (2) 私たちは、業務上知りえた内部情報を利用して疑惑や不信を招く株式の売買などを行いません。
- 3 地域に対して**
 - (1) 私たちは、地域に密着した企業グループの一員であることを自覚し、地域の発展のために活動します。
 - (2) 私たちは、明るく住みやすい社会となることを目指して、地域社会への貢献に努めます。
- 4 社会に対して**
 - (1) 私たちは、市民社会の秩序や安全を脅かす反社会的勢力との関係を断ち、毅然とした態度で対応します。
 - (2) 私たちは、社会的に許されない政治献金や寄付、社会から誤解や不信を抱かれるような接待や贈答を行わず、また、受けません。
- 5 環境に対して**
 - (1) 私たちは、地球環境を守る担い手として、環境への負荷軽減、資源の有効活用に努めます。
 - (2) 私たちは、環境の保全に配慮し、自然環境と調和した事業活動に努めます。
- 6 取引先に対して**
 - (1) 私たちは、不当な取引制限や、不正な方法による取引は行いません。
 - (2) 私たちは、取引先との間で公正な取引関係を築き、会社と取引先の双方にとって最適な取引を行うよう努めます。
- 7 会社に対して**
 - (1) 私たちは、会社の財産(知的財産、企業ブランドを含む)を大切に扱い、その価値の維持・増大に努めます。
 - (2) 私たちは、会社の重要情報およびお客さまや他社の機密情報を厳重に取り扱い、漏洩の防止に努めます。
- 8 役員・従業員相互の関係**
 - (1) 私たちは、職場における事故の防止に全力を尽くし、安全で衛生的な職場環境の整備に努めます。
 - (2) 私たちは、個人の人格と人権を尊重し、国籍・性別・宗教などによる差別やセクシュアルハラスメントなどの嫌がらせのない、明るく活気のある職場づくりに努めます。

コンプライアンスに関する教育・研修

京急グループの全従業員が、コンプライアンスに対する理解を深め、一人ひとりが正しく行動できるよう、新入社員から管理・監督職まで階層別に研修を実施し、2015年度は700人の社員が受講しています。また、日々の業務を遂行するうえで、どのようなことに注意して行動すべきかをまとめた「京急グループ・コンプライアンスブック」を研修等において適宜配布したほか、「京急グループ・コンプライアンス指針」や「京急グループ・役員および従業員行動基準」をカードサイズに印刷した「コンプライアンスカード」を、グループのすべての役員および従業員に携行させ、常にその趣旨を意識し、行動できるようにしています。



個人情報保護方針

京急グループは、個人情報保護に対する社会的要請に応えるべく、法令などを順守するとともに、個人情報保護に関する取り組み姿勢を明確にするため、プライバシーポリシーを定め、忠実に実行します。

※個人情報保護方針の全文は、京急電鉄のホームページ(トップページ→プライバシーポリシー)をご覧ください。

内部通報制度(コンプライアンス窓口)

京急グループでは、所属会社や雇用形態を問わず、すべての従業員が利用できるコンプライアンス窓口を社内と社外に設置し、コンプライアンス違反に関する通報を受け付けています。

また、「内部通報規程」を整備し、通報者の保護など公正かつ適正な窓口の運営を徹底しています。さらに、コンプライアンスカードに窓口の連絡先を記載するなど、グループの全従業員に周知し、窓口の実効性を確保することで、コンプライアンス違反情報を早期に察知し、違反を防ぐ体制を構築しています。